

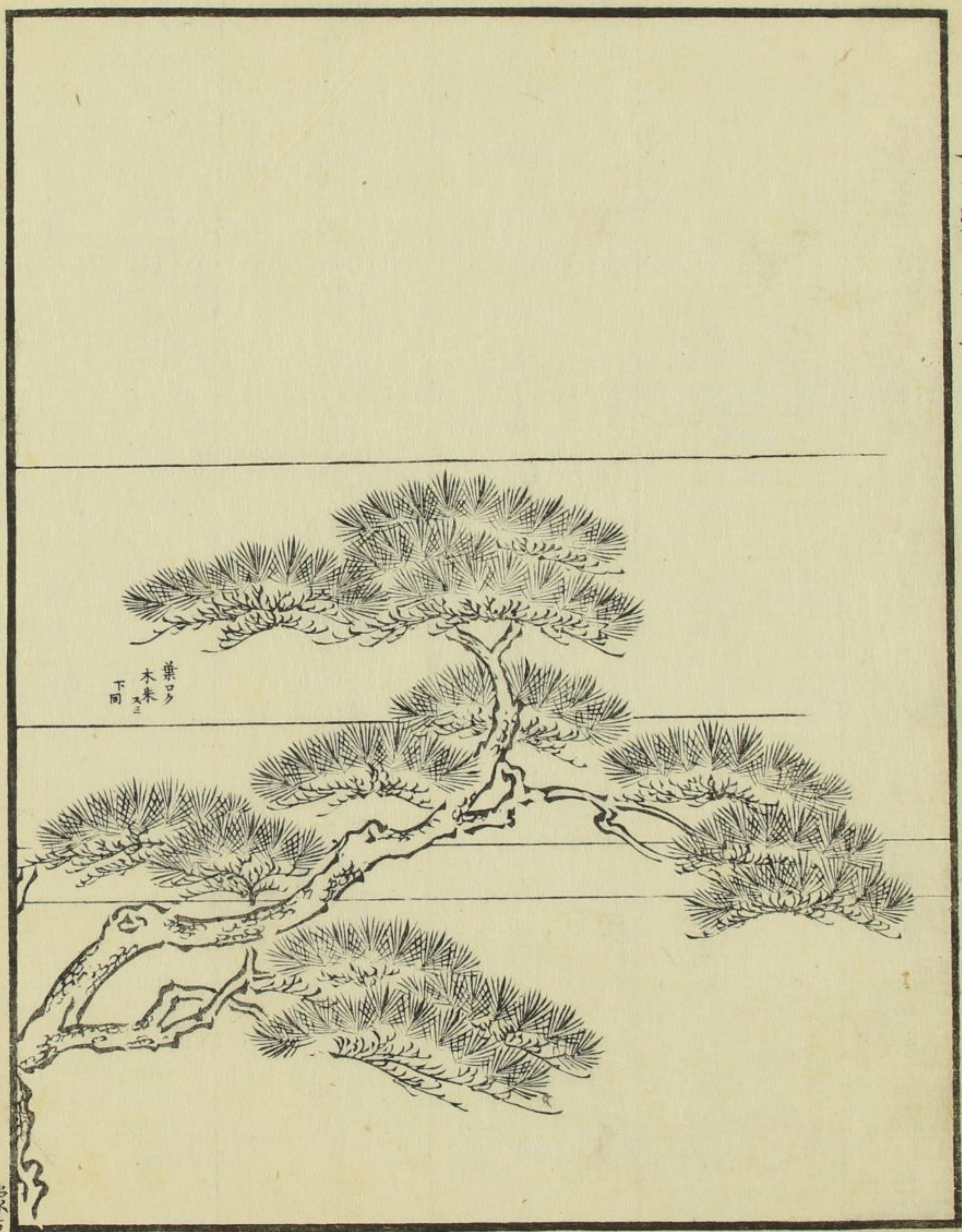
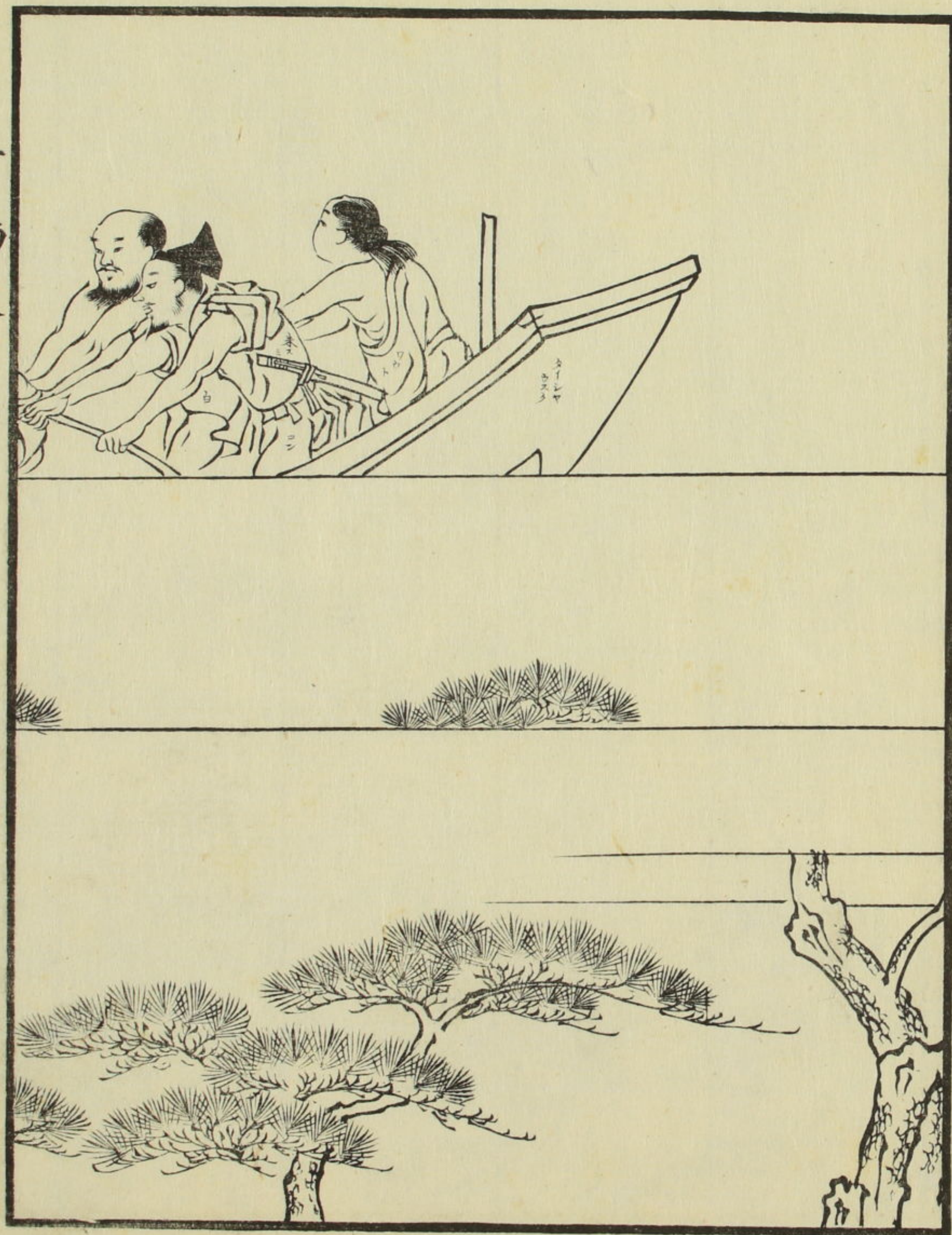
丹鶴集書

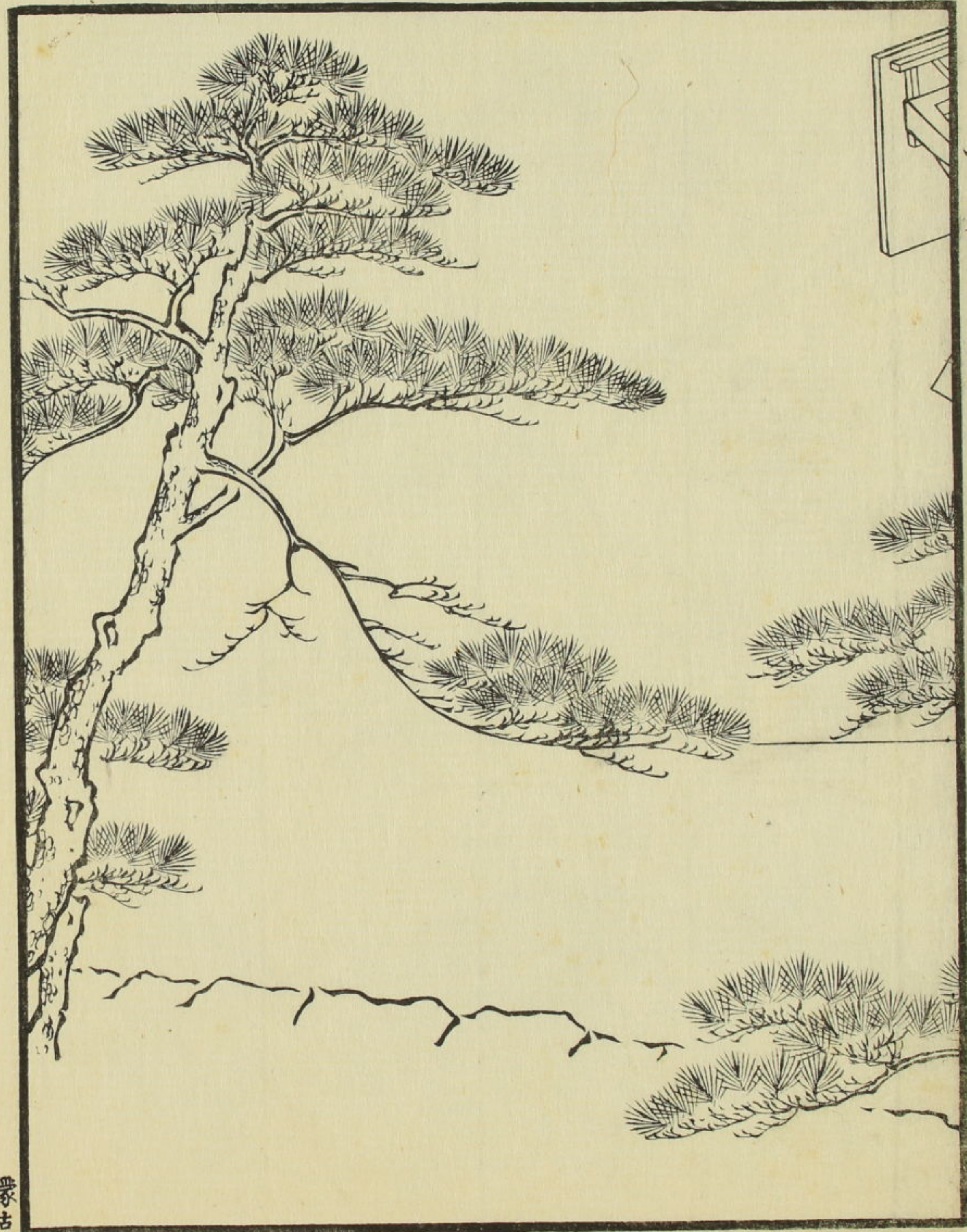
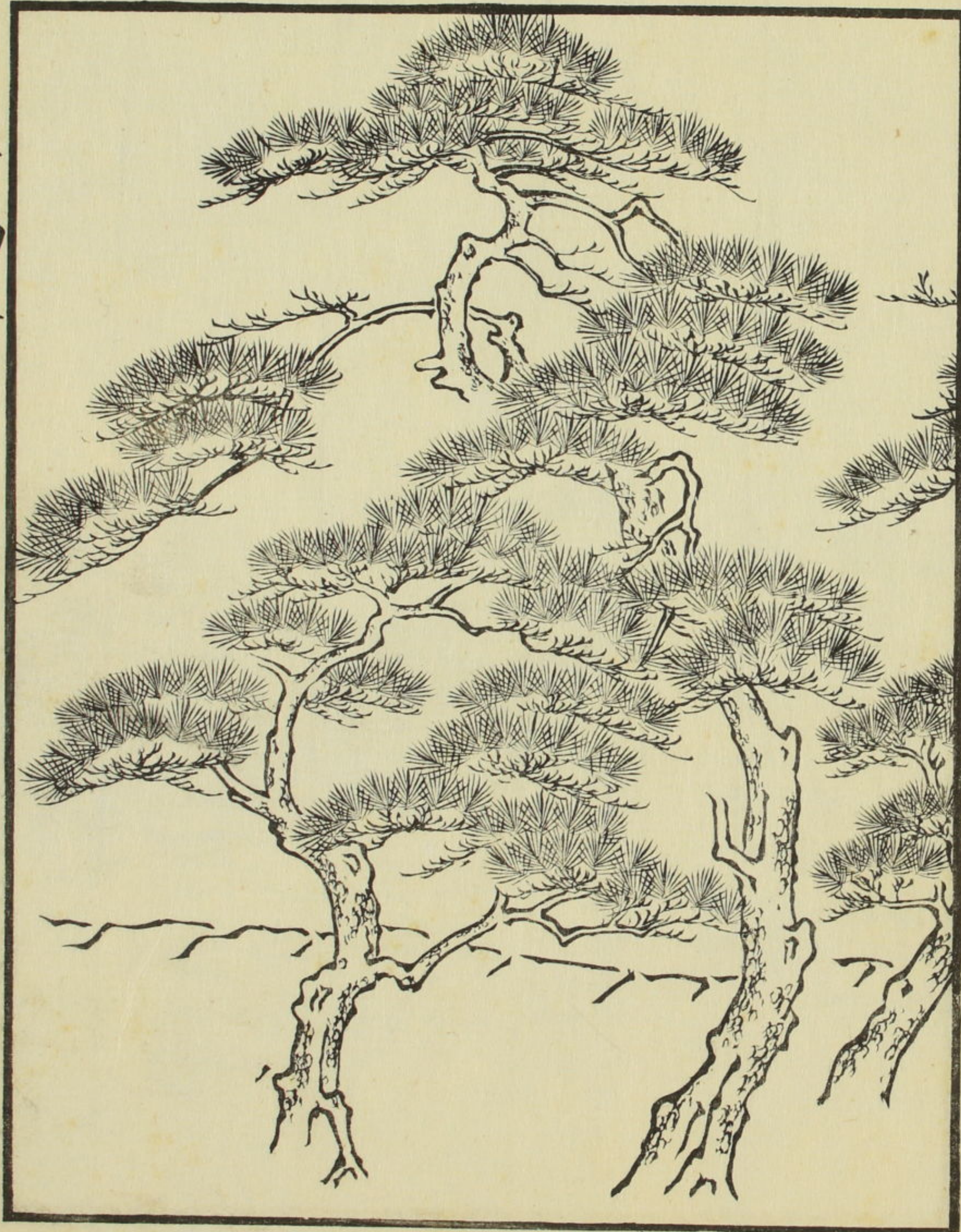
蒙古製未繪



蒙古襲来繪詞 下

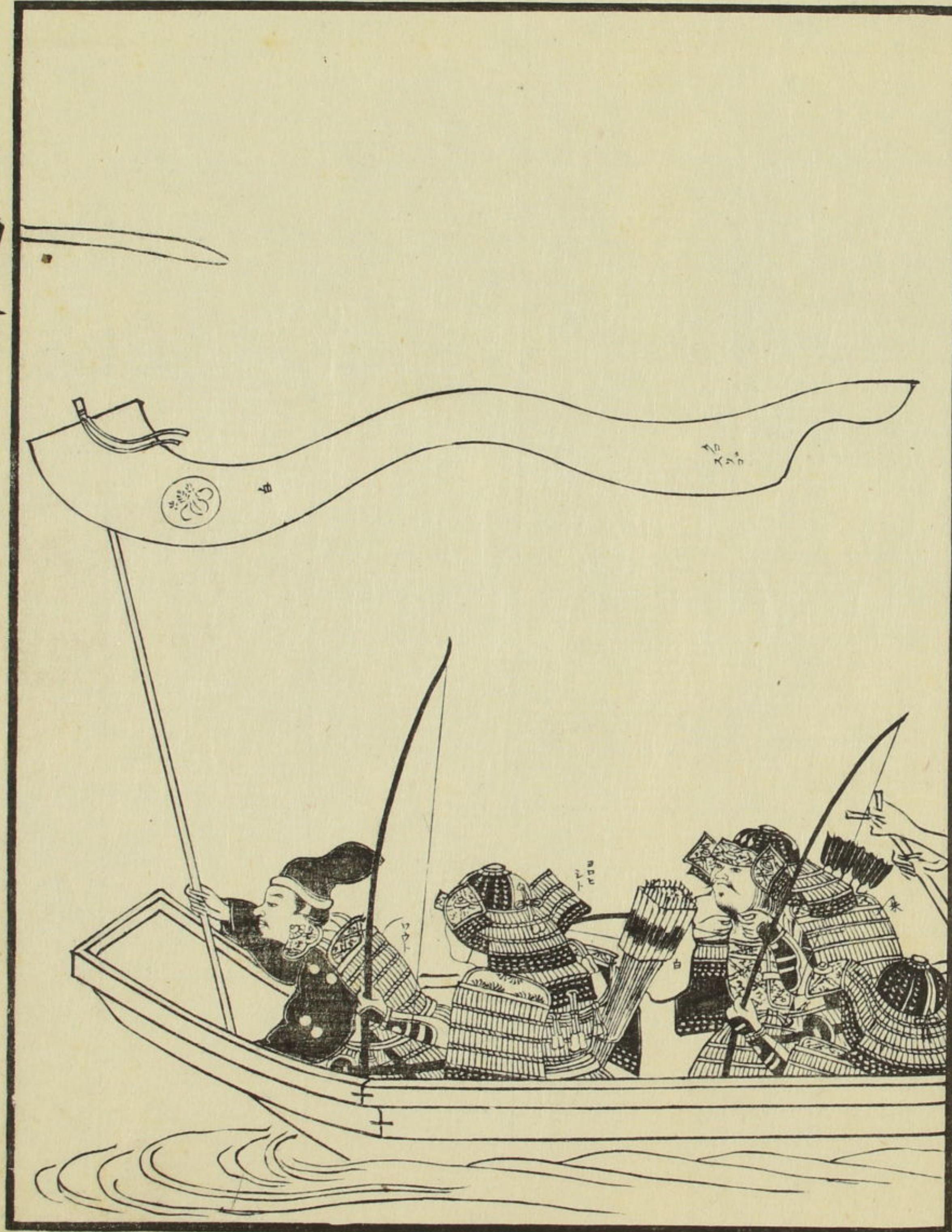
同五日開東乃序つゝいかにこれ五市 とどろ あひらうれ
左衛門三市 志けり 拂曉ふせきり志に季長ゆゑむ
海ををきりてあひらふ福ををり序大軍ふも抑ひぬ
ねむるに申ふかゝり乃五市兵船ををりいぢりあひら
あうるへと申とるに肥前國の序家人 其名わら せう
まれに乃浦よりこれのちかふねも賊徒あまゝんり
ゆをばいひのちかふちかふも抑ひぬえら乃せきんを
にちかふちかふ申に季長おほせのちかふいのちかふ







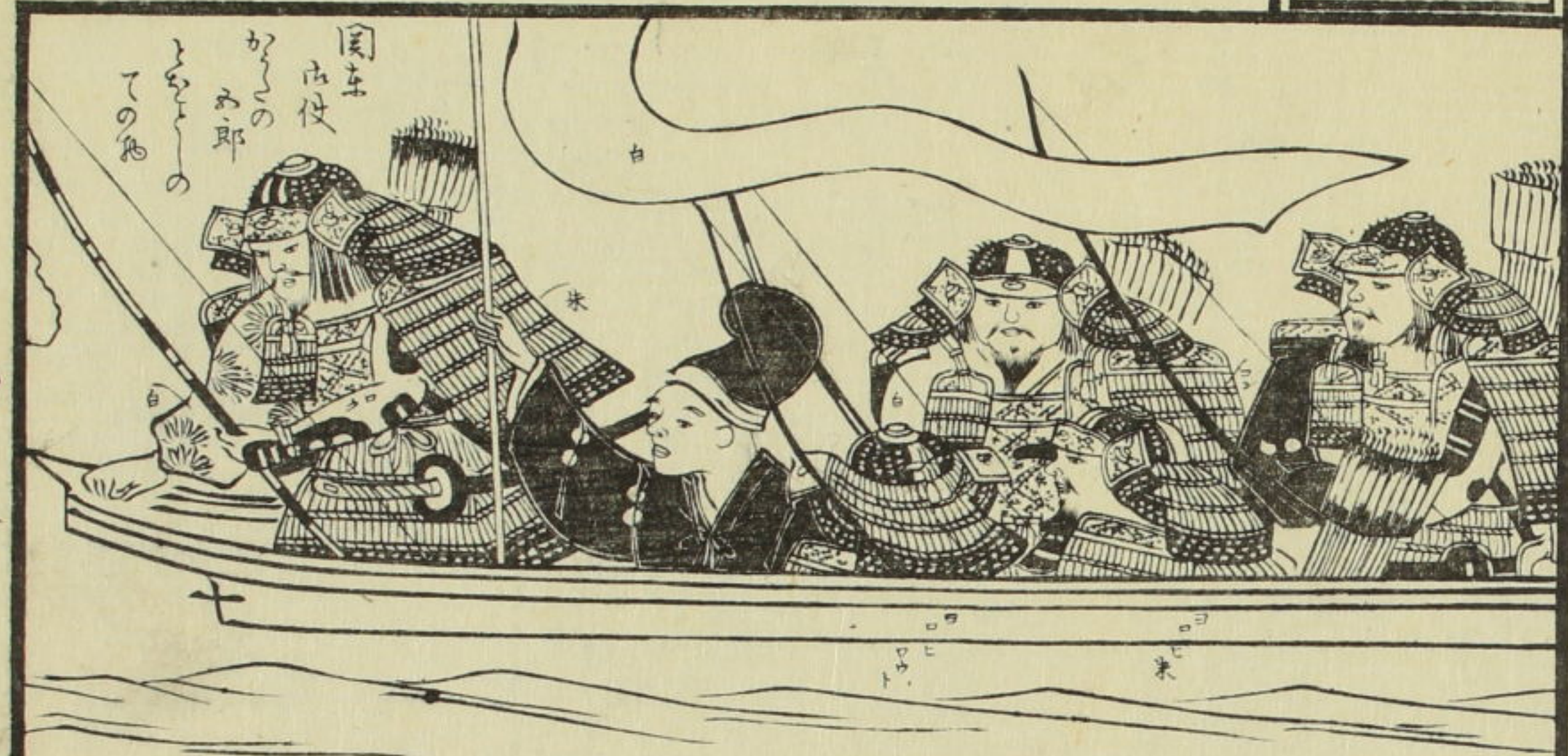
くさの次郎
のねありの公
せん



あまのつゝの大や
 舟十鳥を渡す
 舟三舟を渡す
 舟を渡す

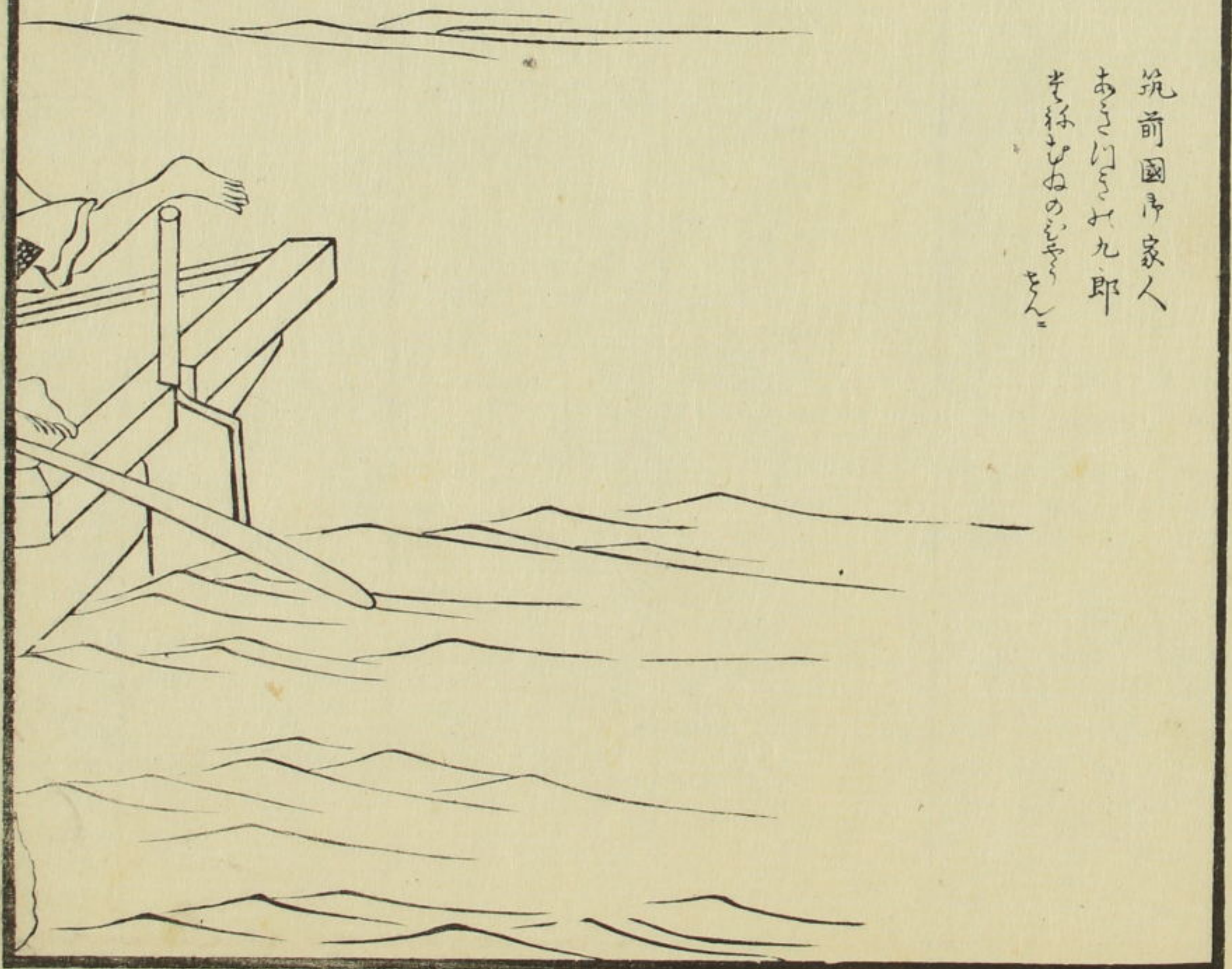


白
白
白
白
白
白



丹鳥長書

筑前國津家人
あまのりや九郎
きねのむすめ

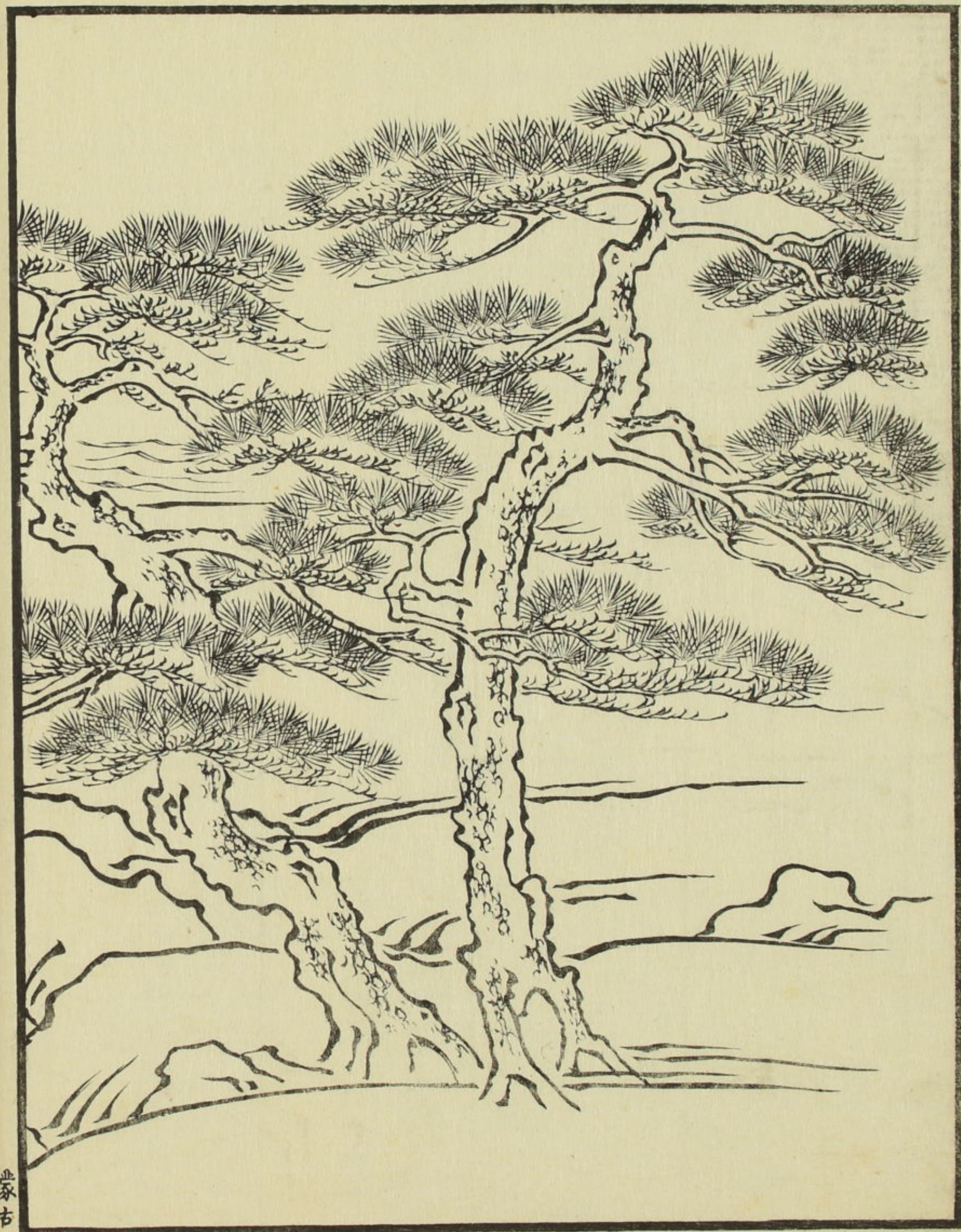
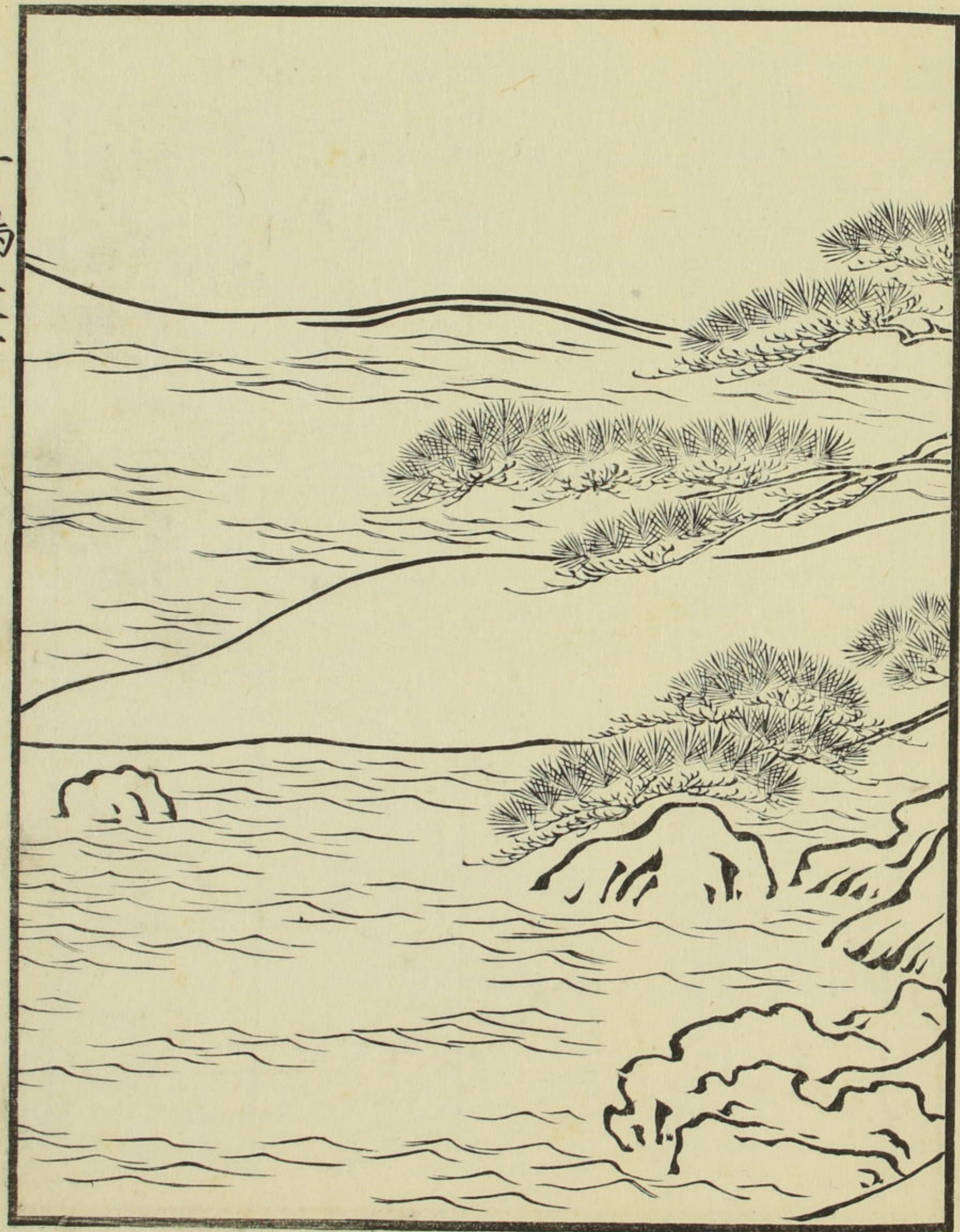


丹雀書目

下七

蒙古

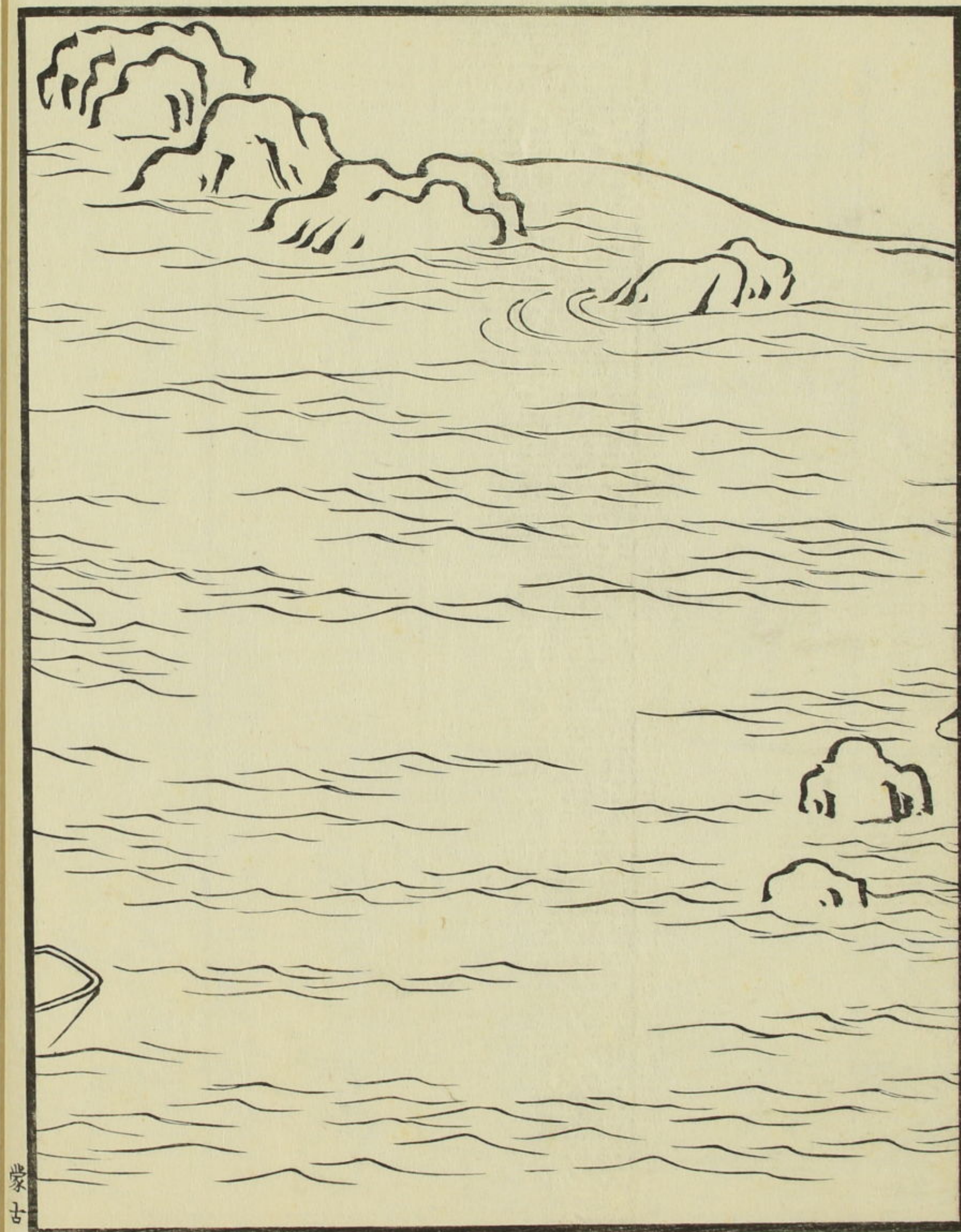
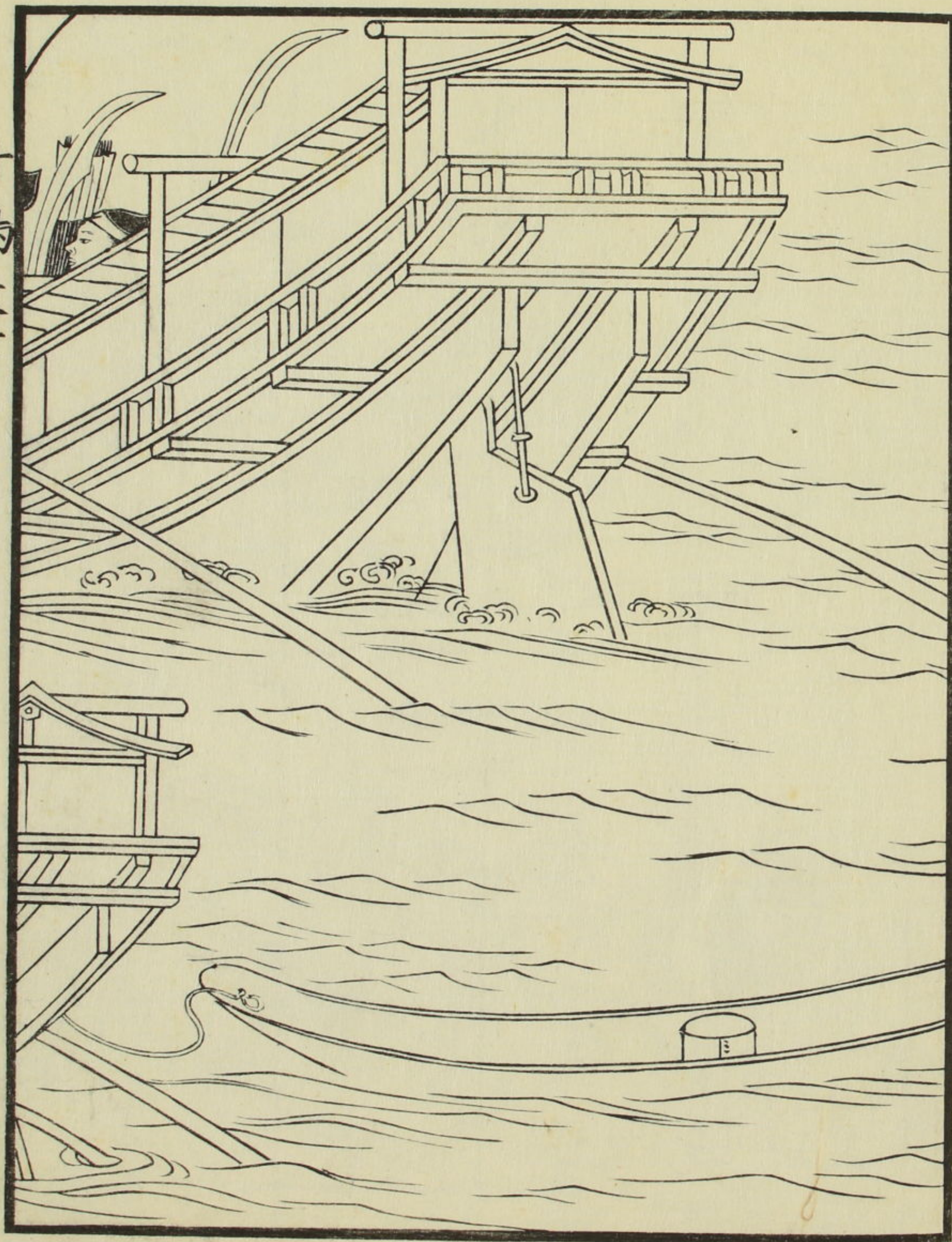
丹鳥叢書

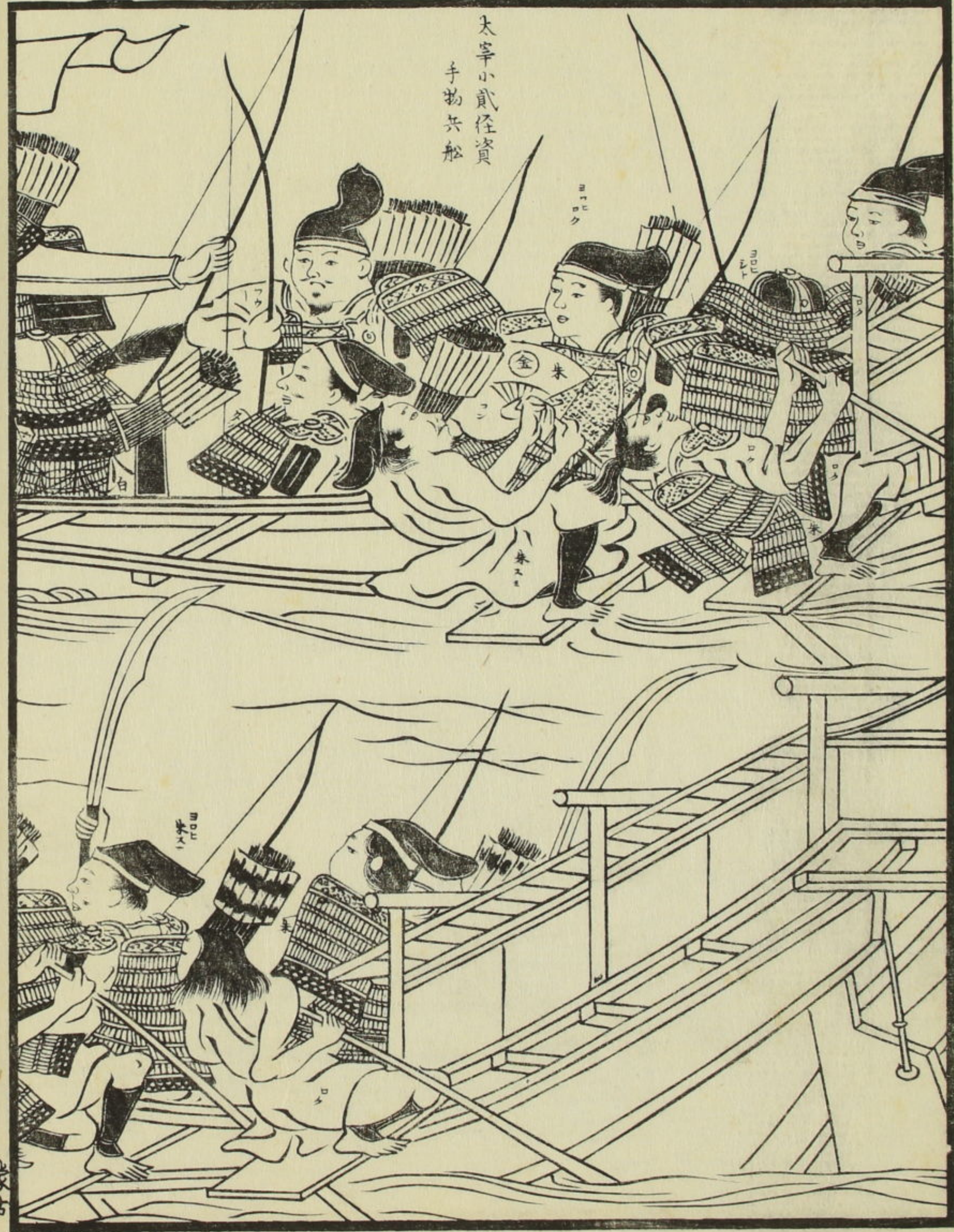
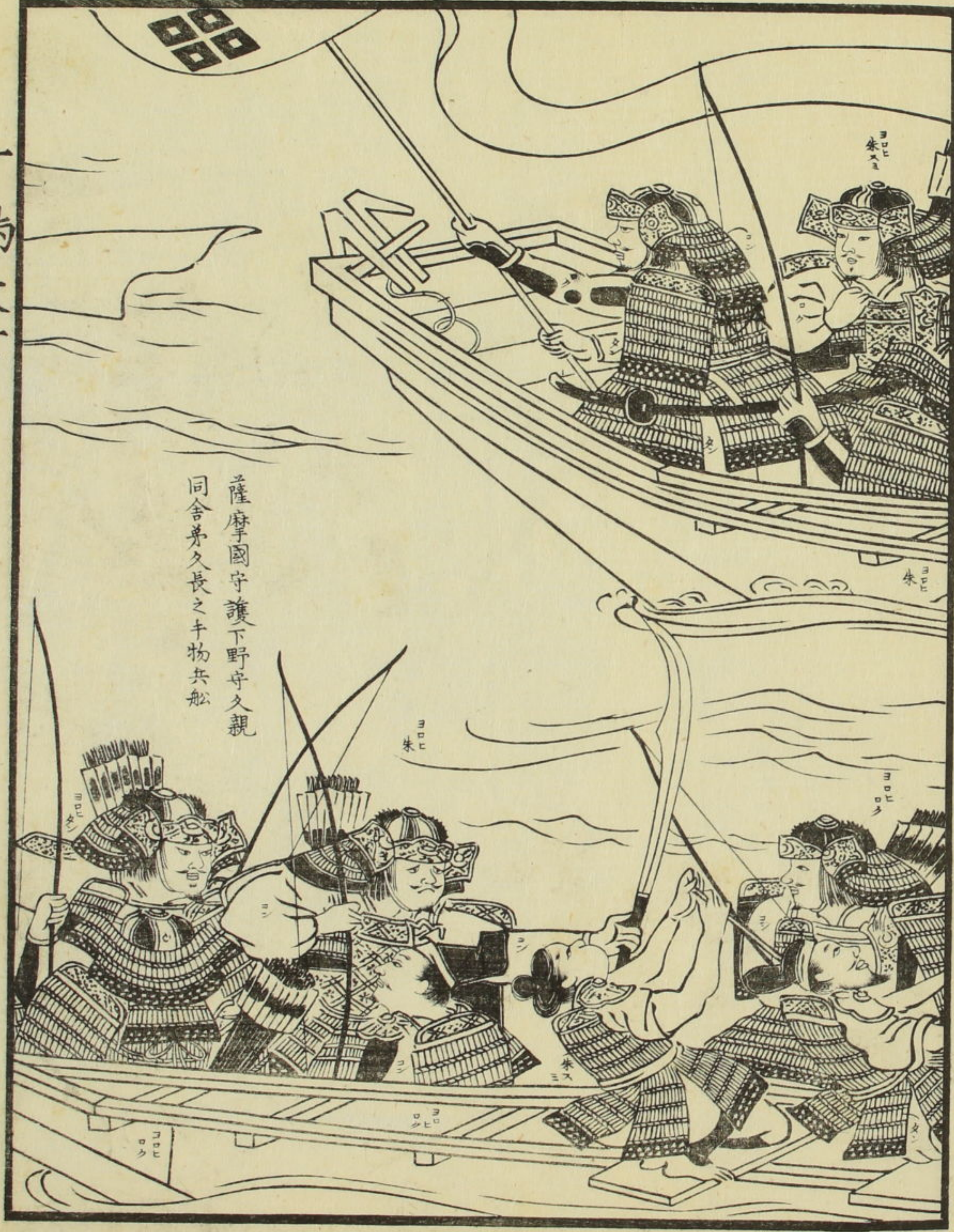


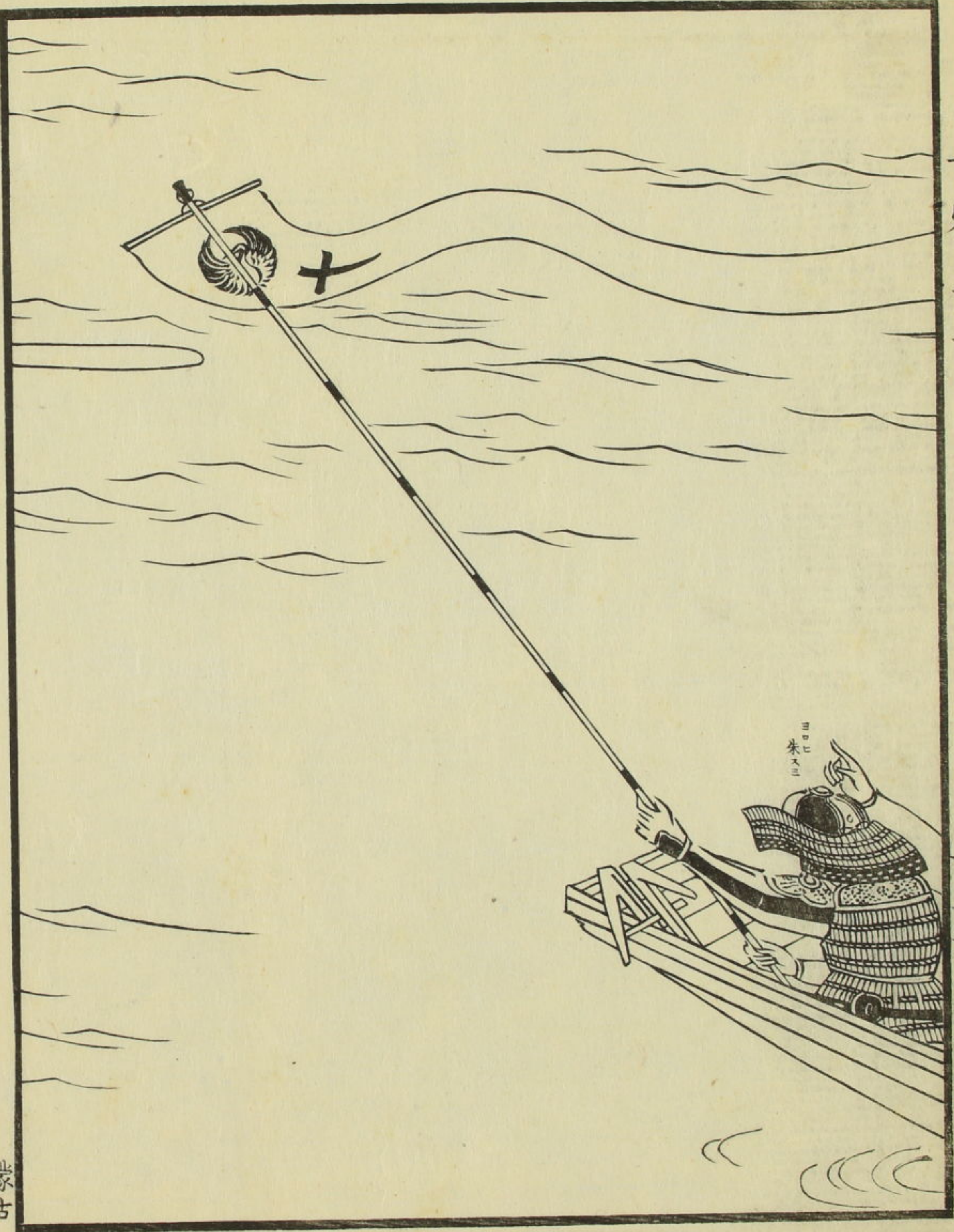
丹鳥叢書

下八

世家古

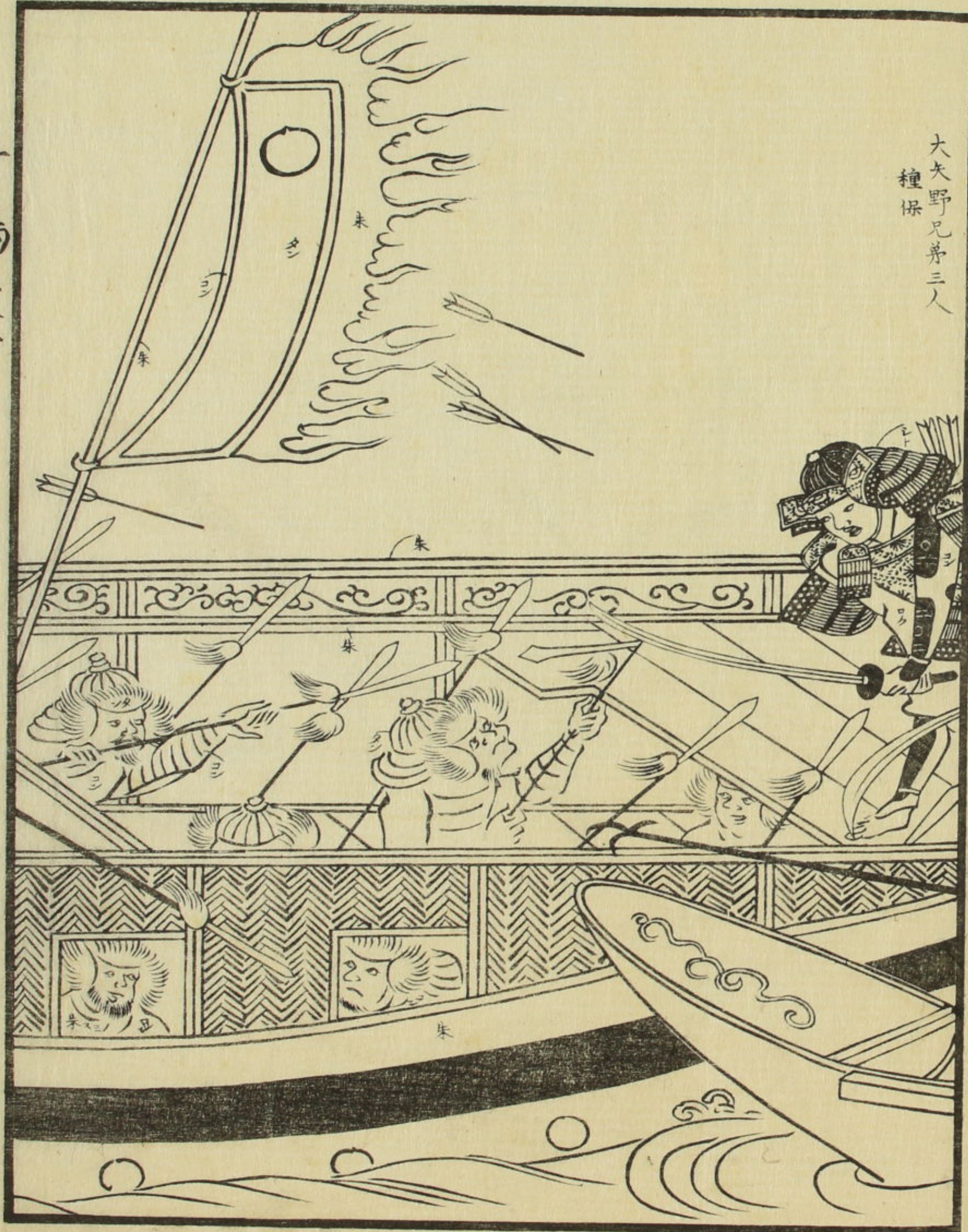






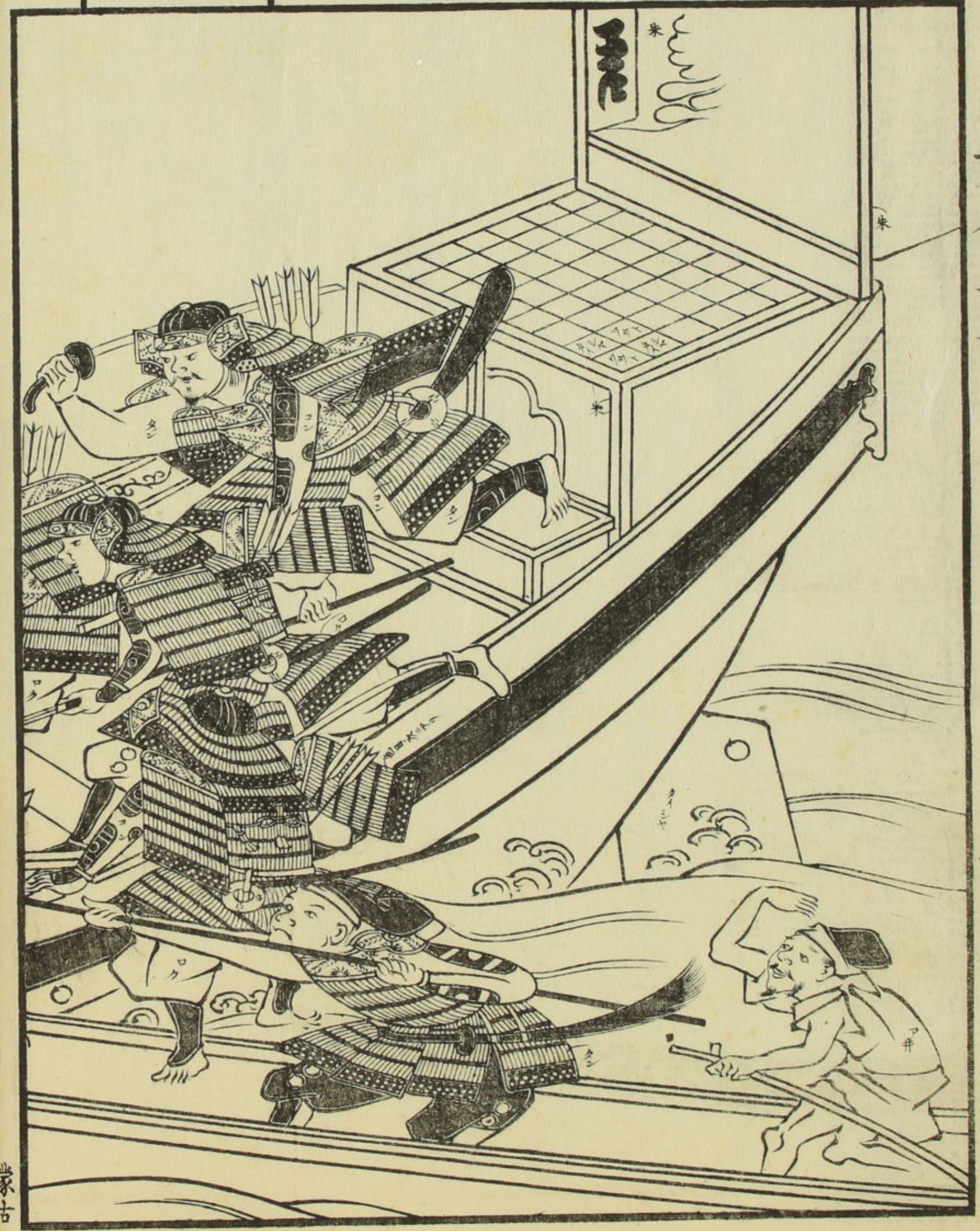
蒙古

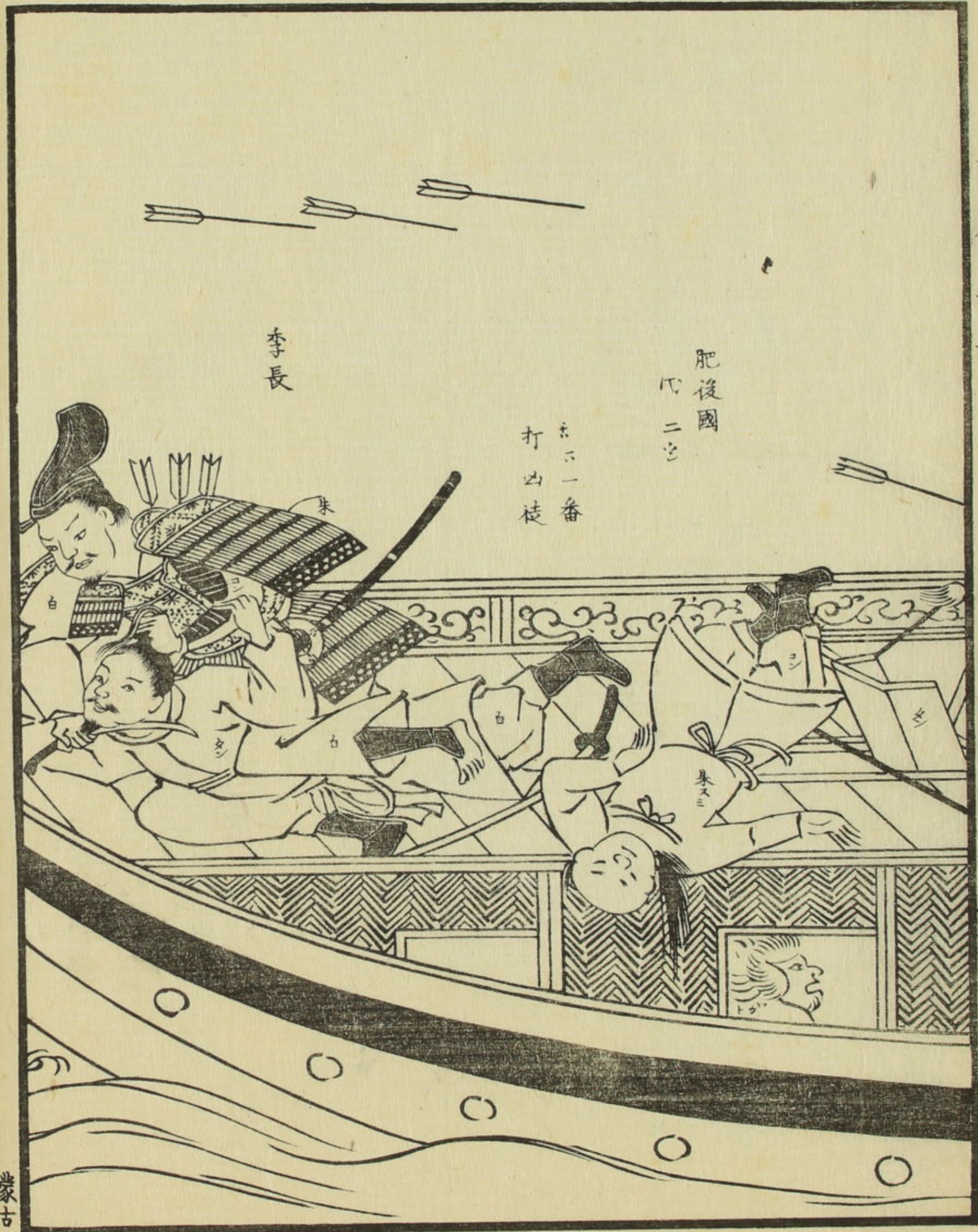
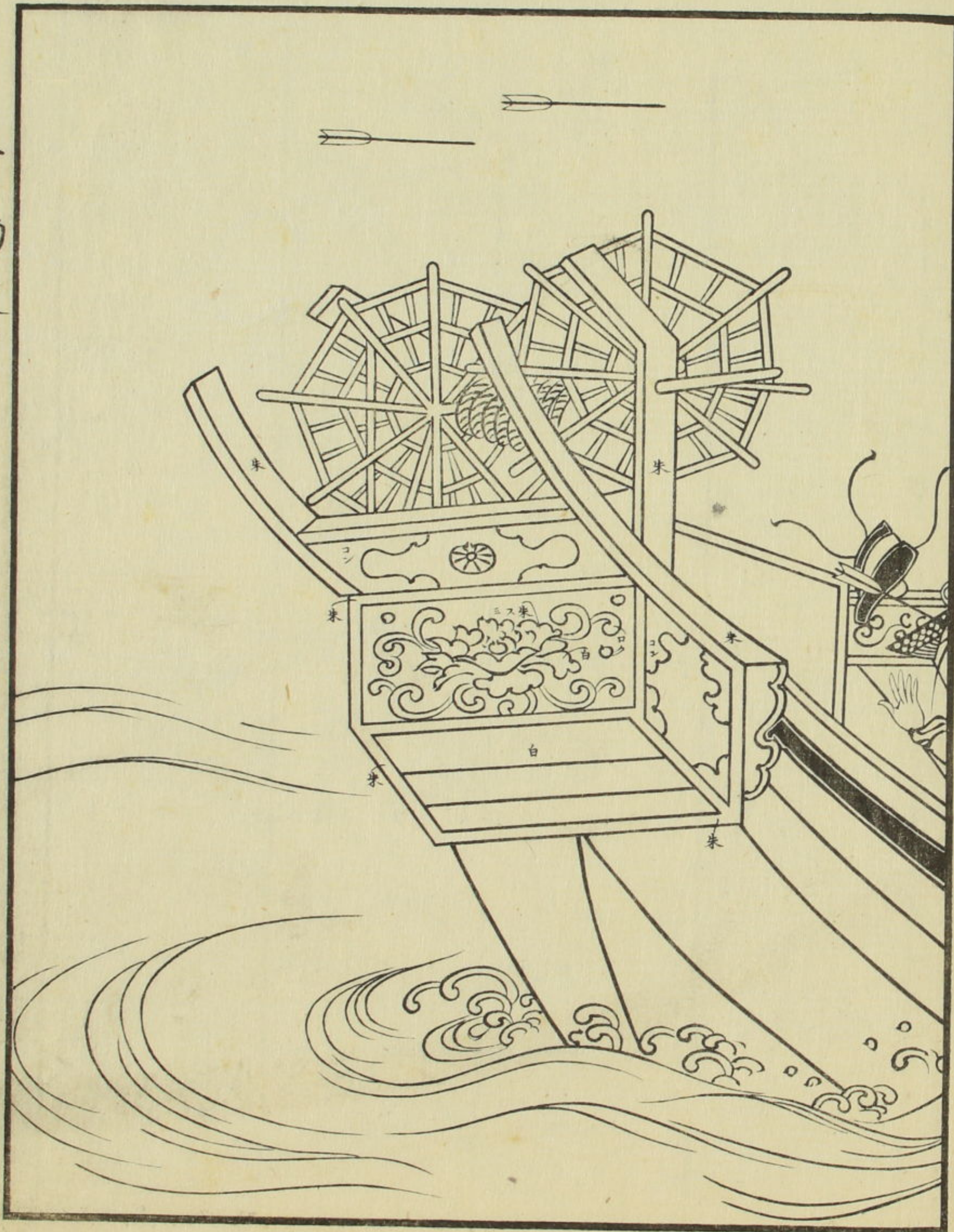
志く一研ふ合戦をくくね母せよら沸し孫をよせられ
 けし申ふせらばいひつゝをせしかかゝらまゝをくくく
 とくもものいひやまのたつてけもて甚深な母せ
 法を申らばいひ申ふ乃ちくも孫をくく孫く下
 申ふせらばいひつゝをせくく守護いひられ
 ちもよもらそくし孫をこの言よを申よちのくくく
 せのくく守護いひられしよを次このも孫をくくく
 く申うけくのくくくしよを申くくく申に孫を

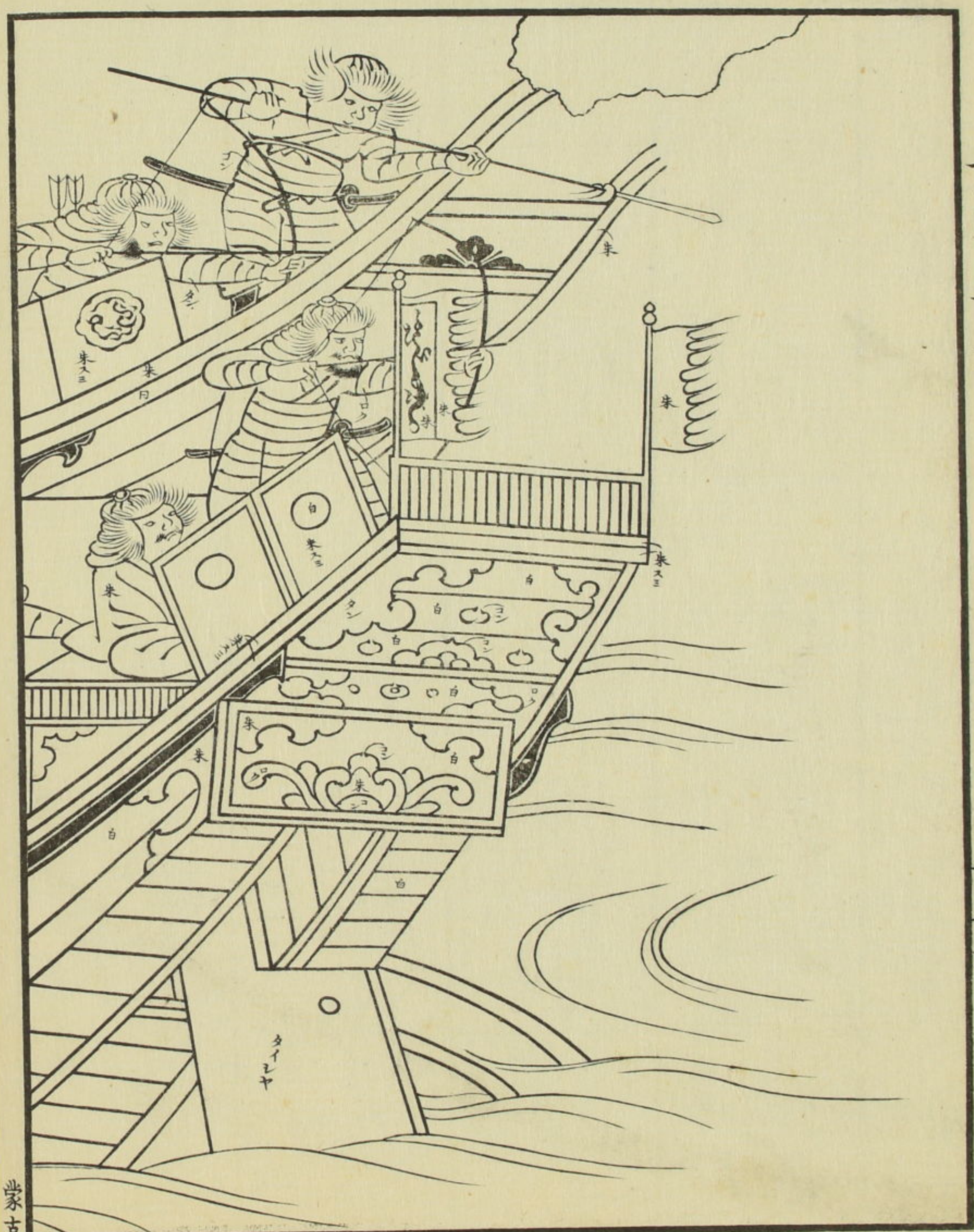
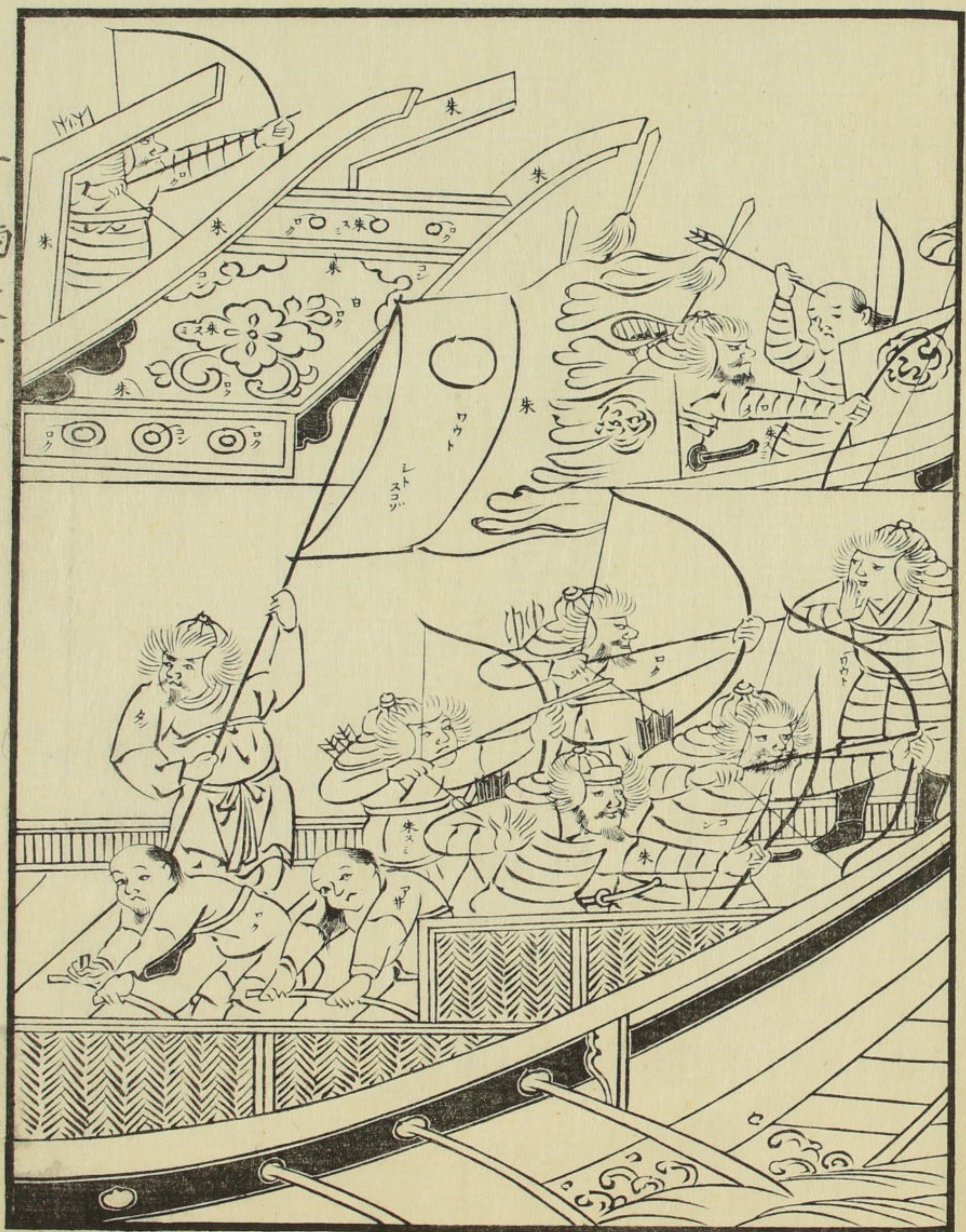


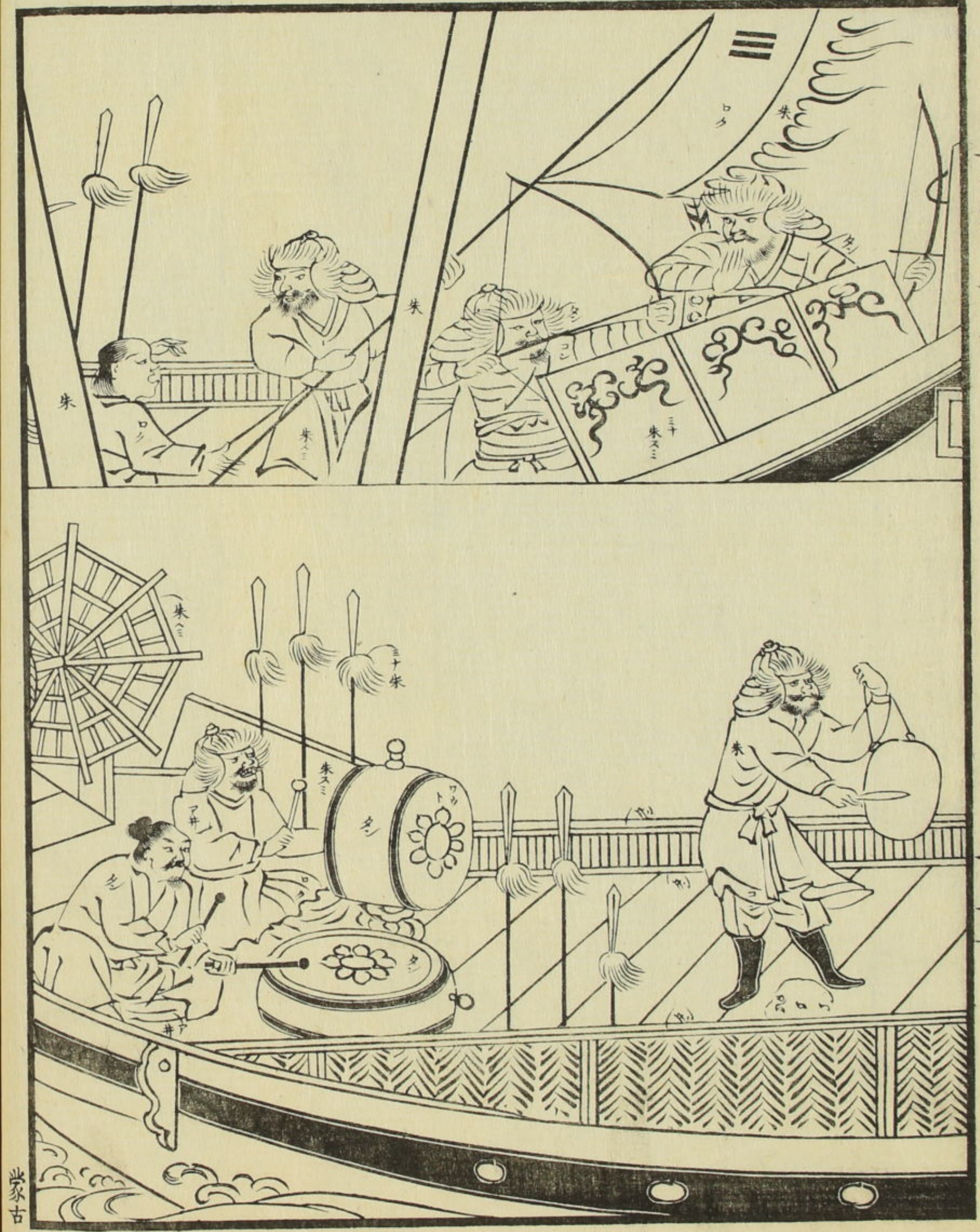
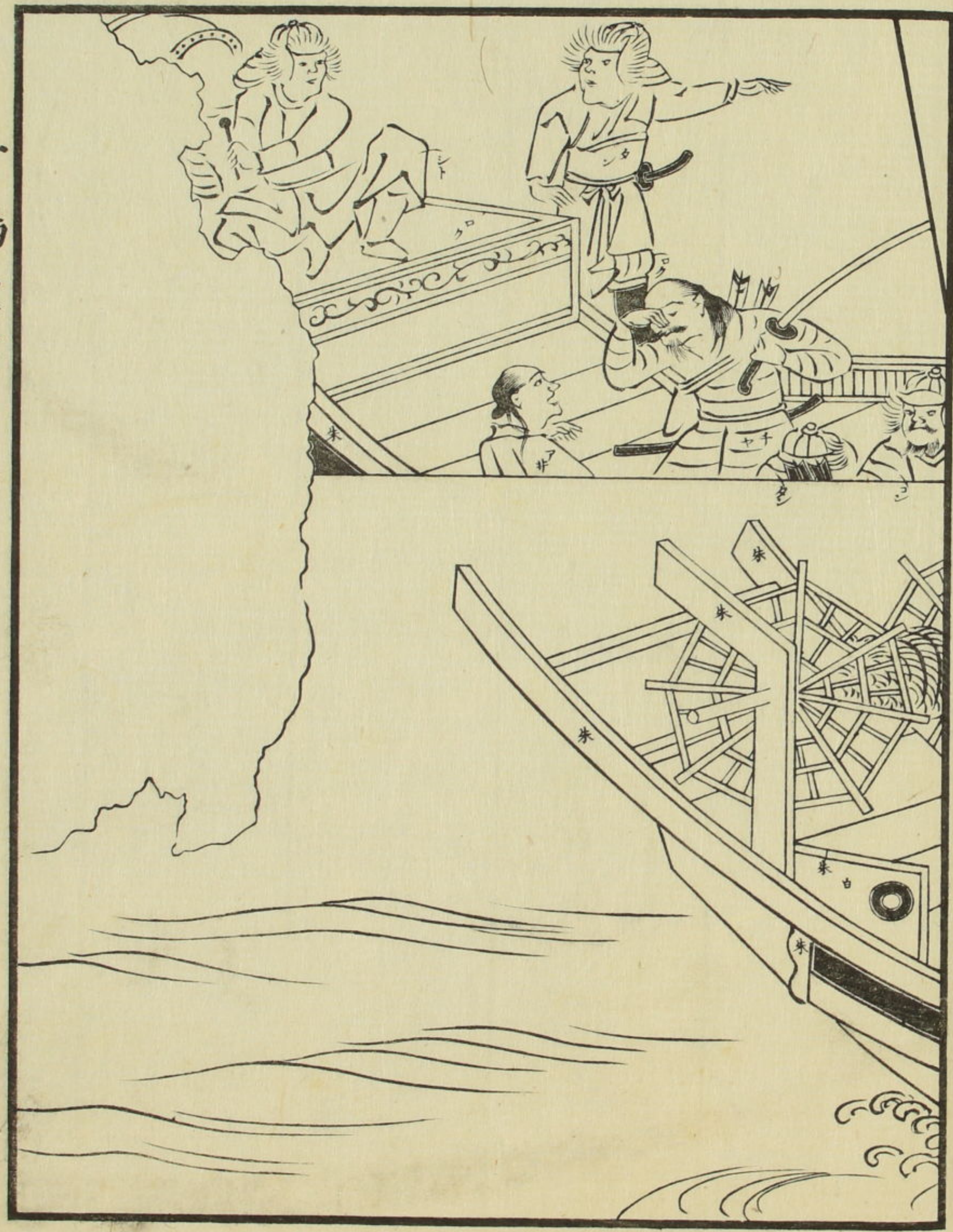
大夫野兄弟三人
種保

白
ト
レ
コ
シ

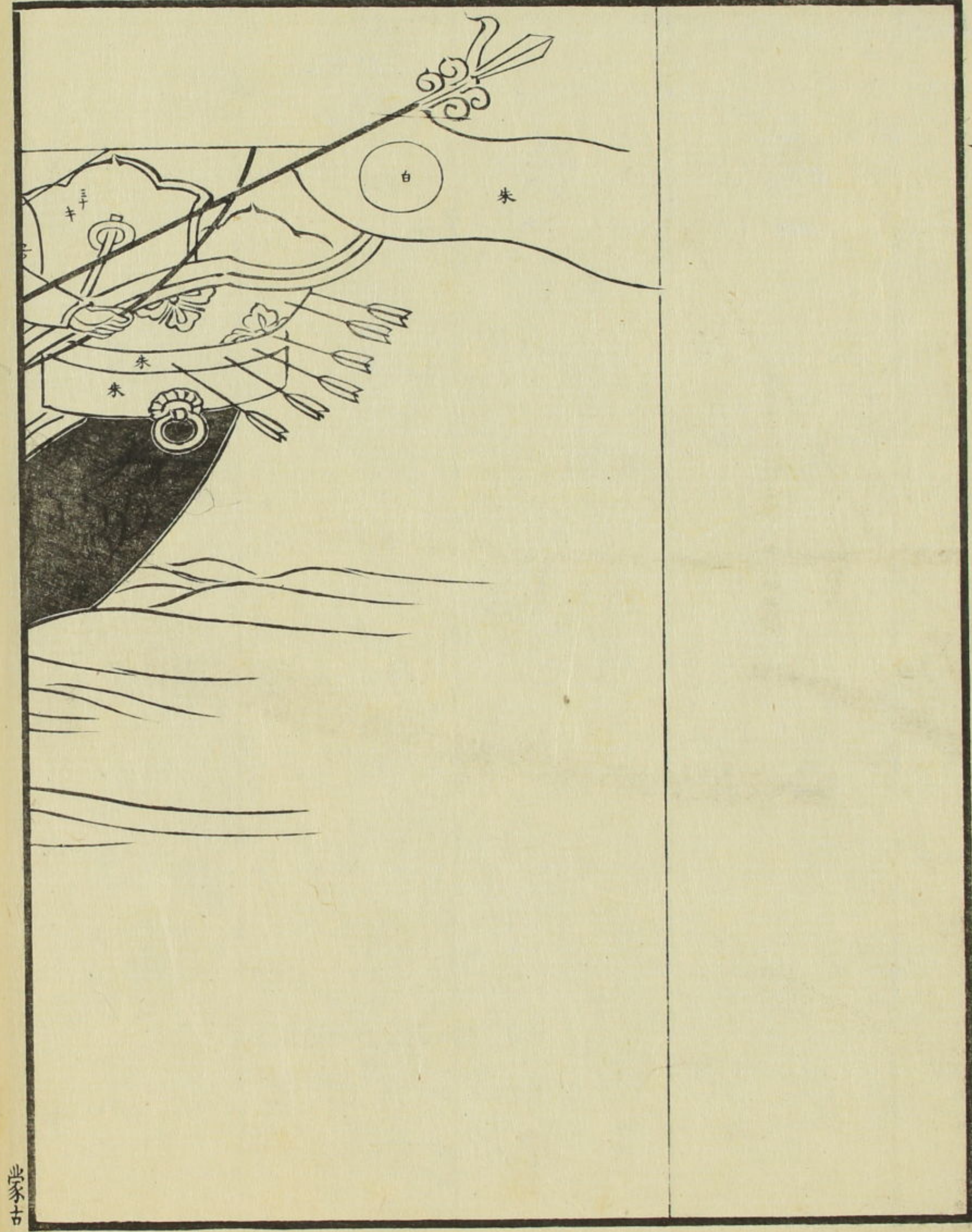
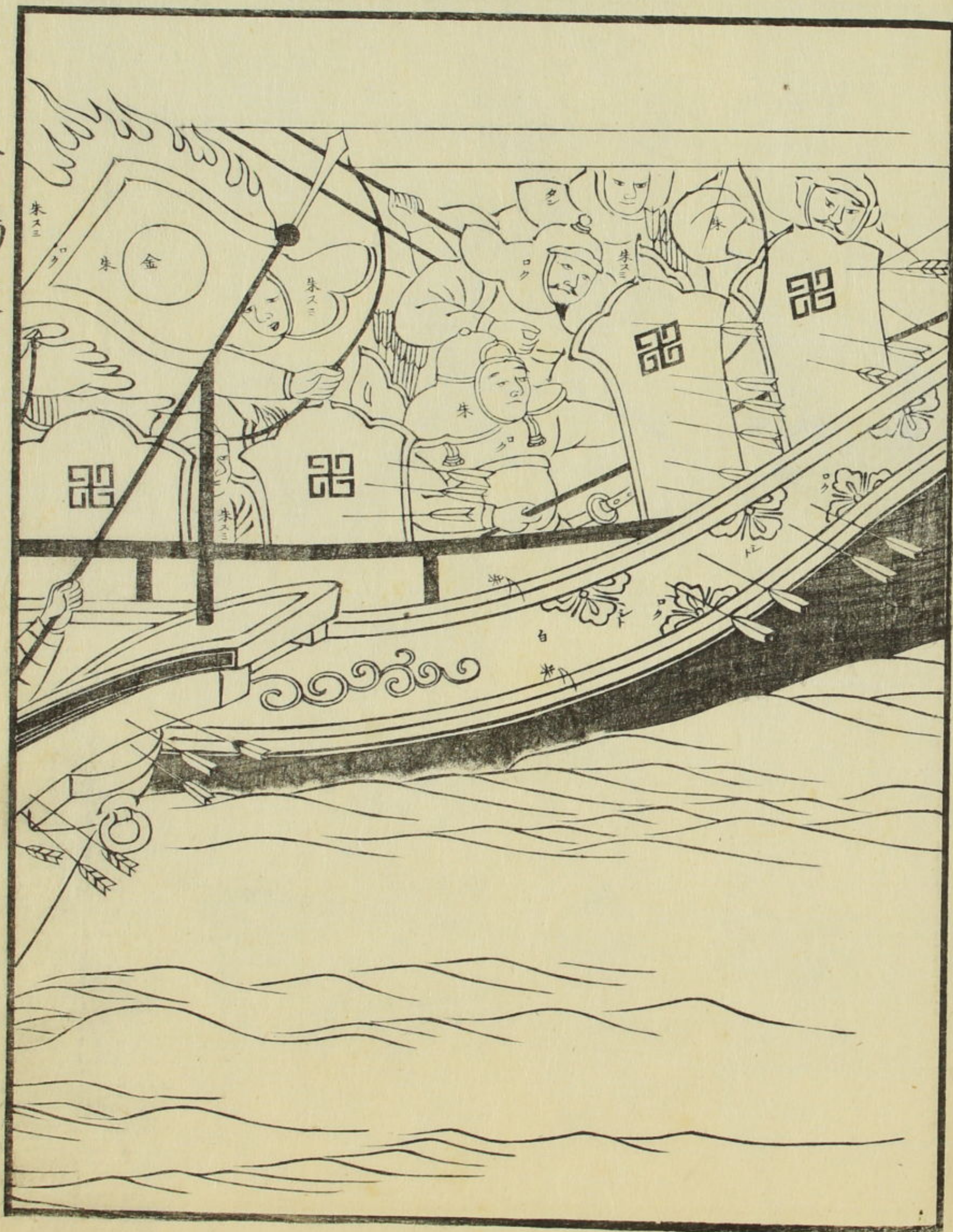








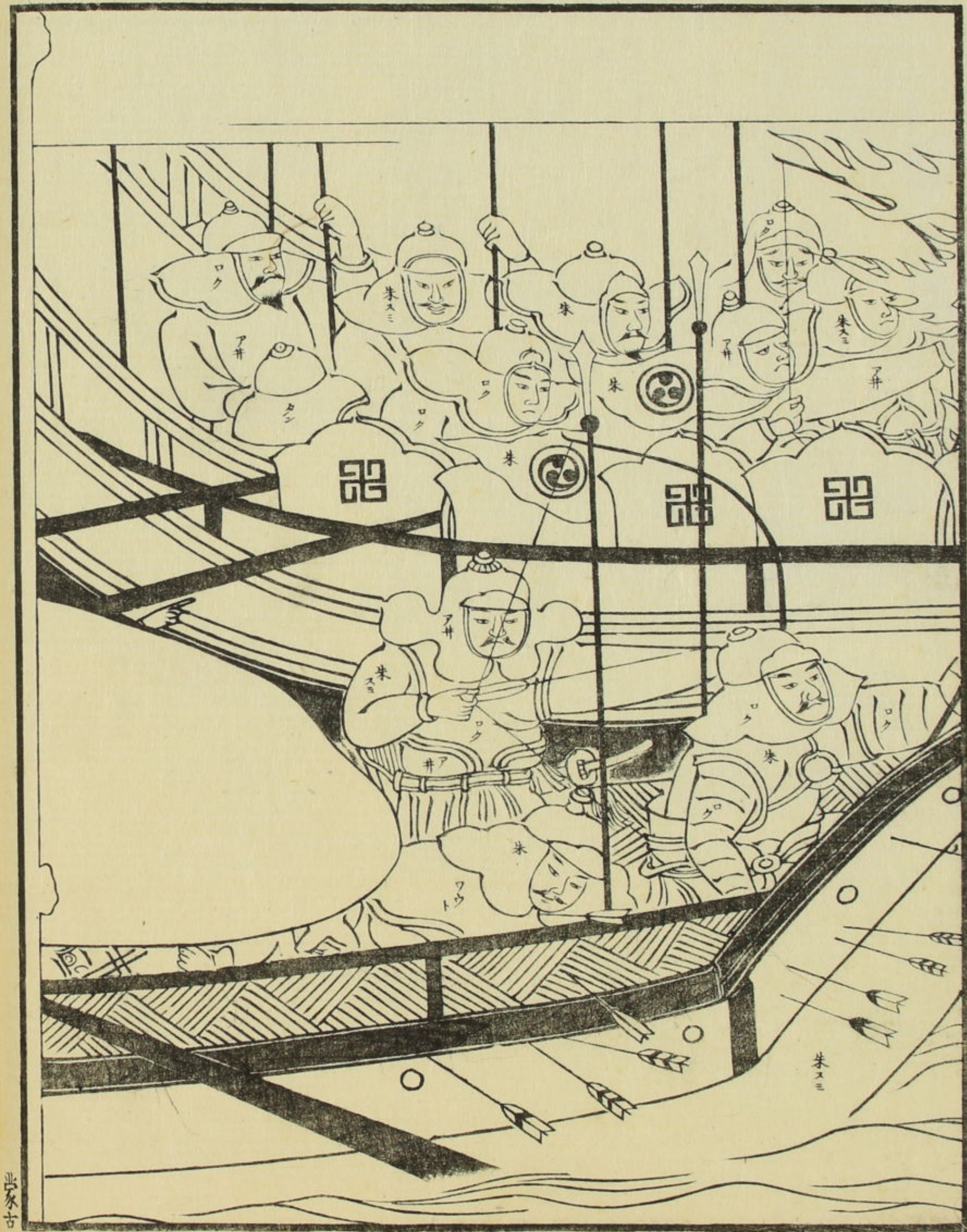
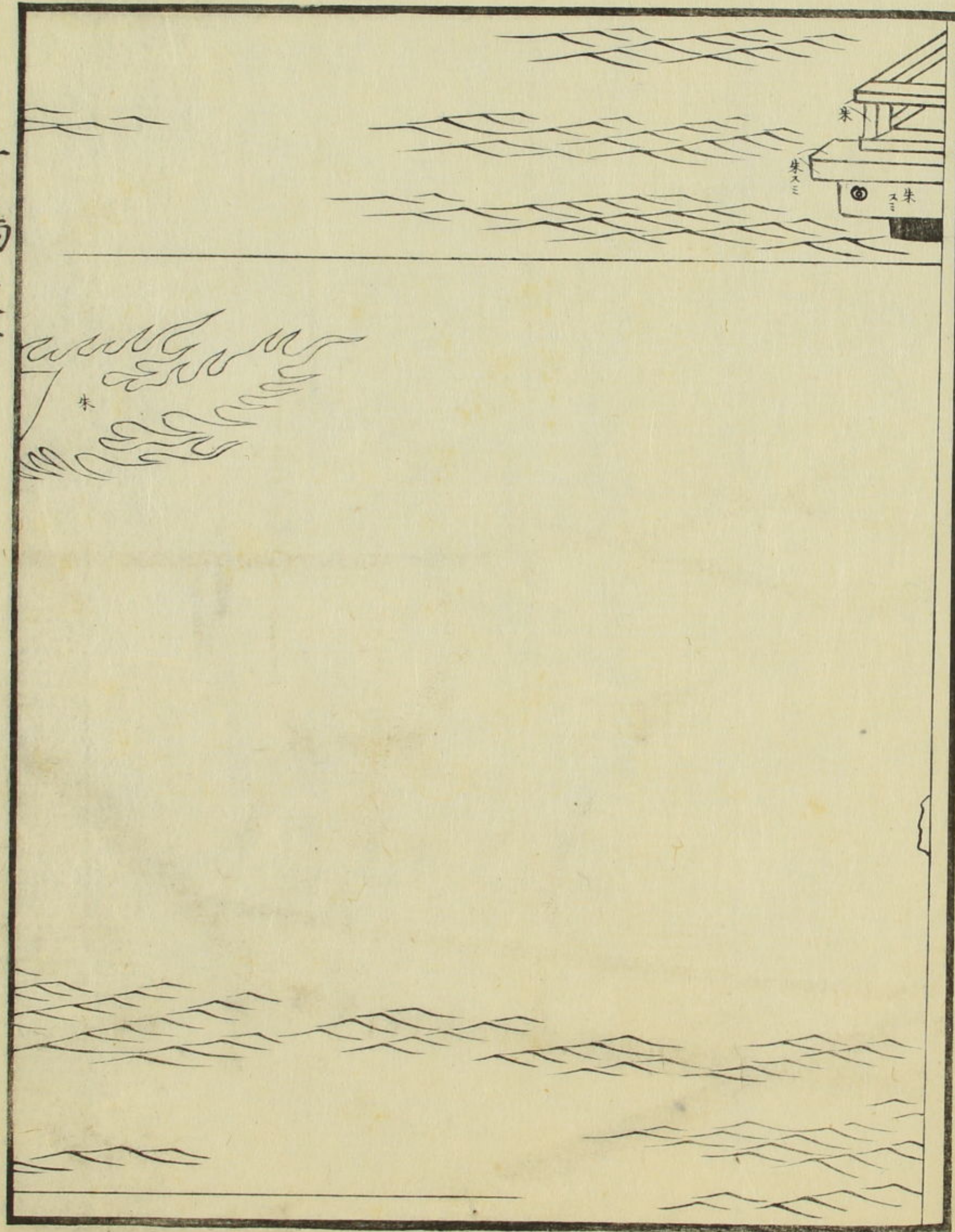
舟鳥叢書

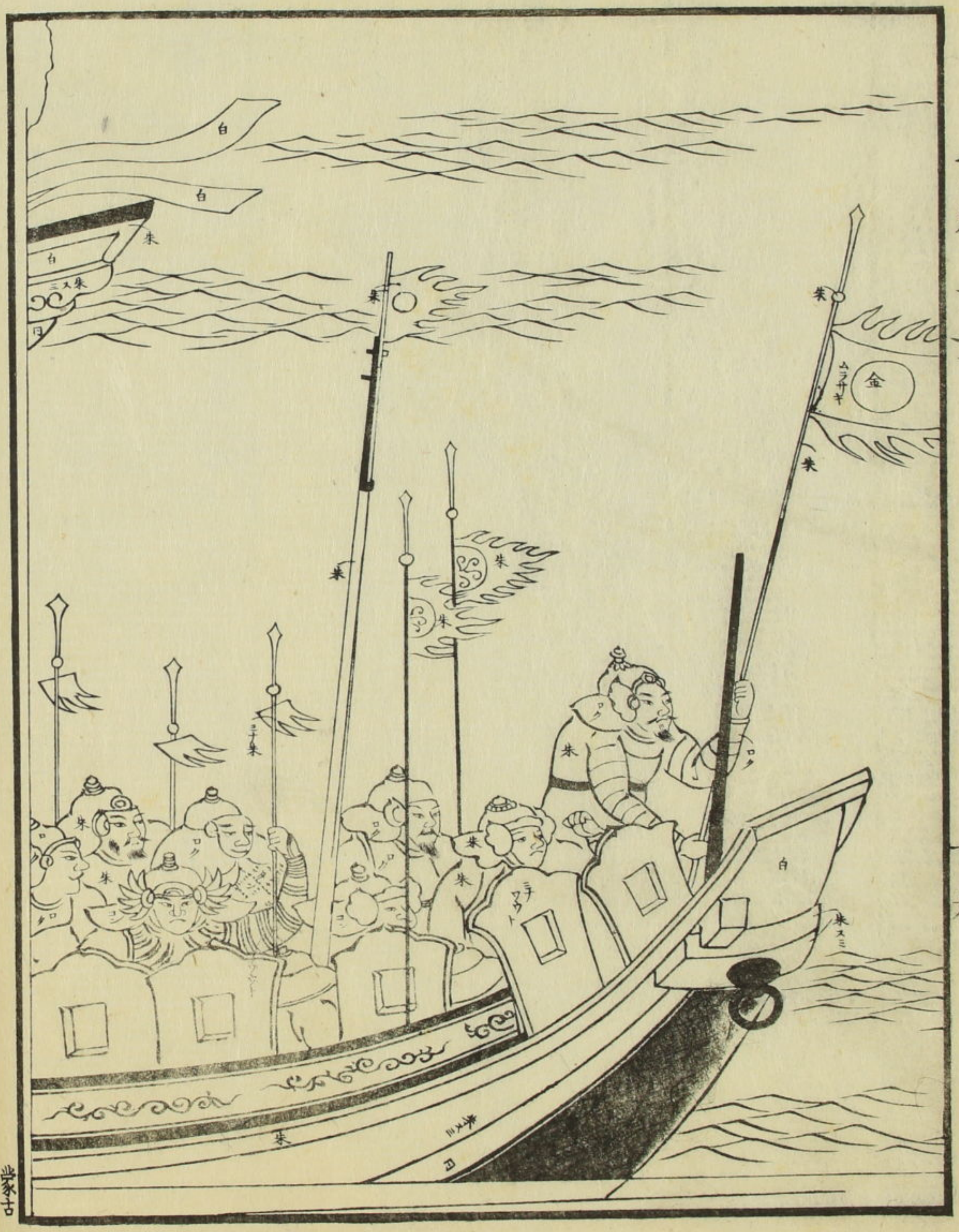
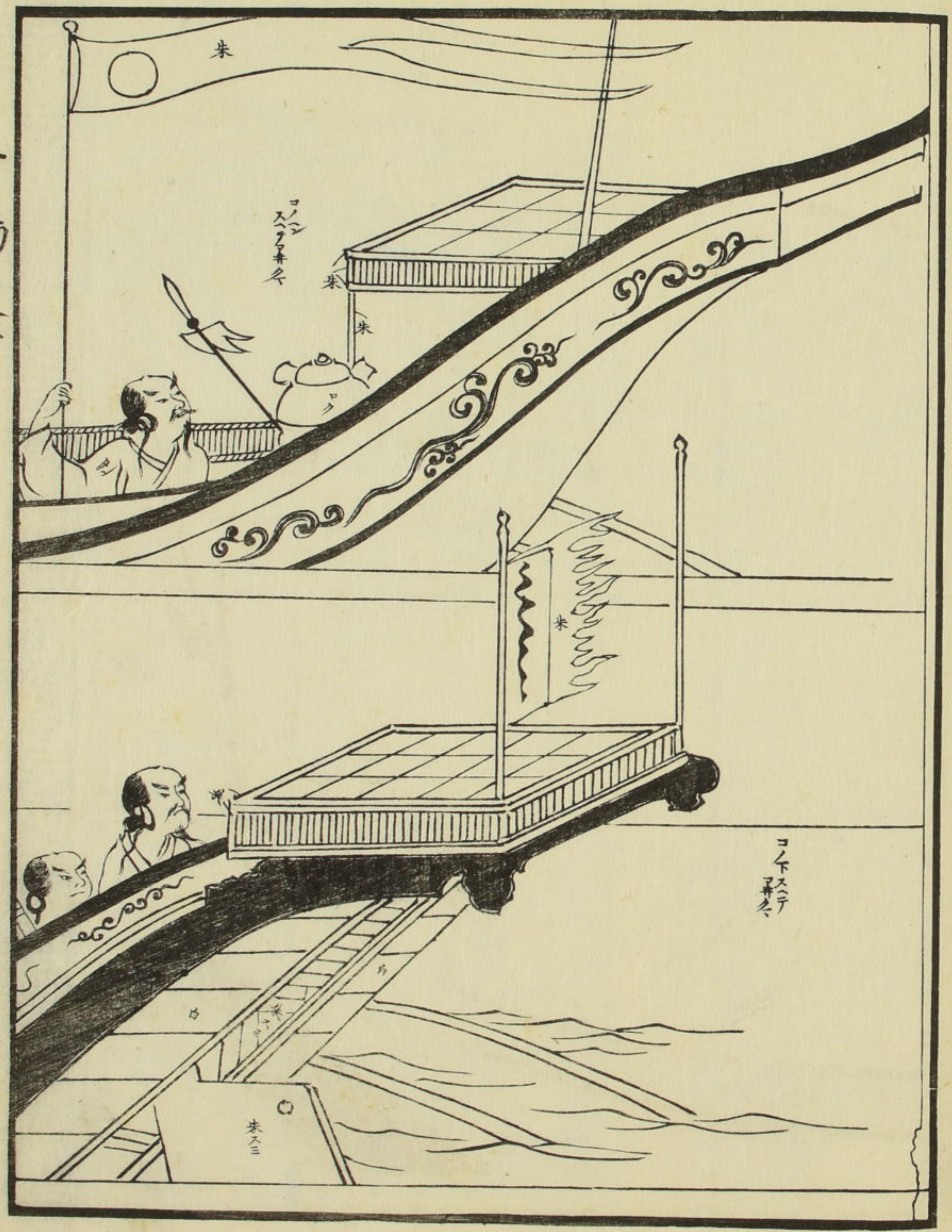


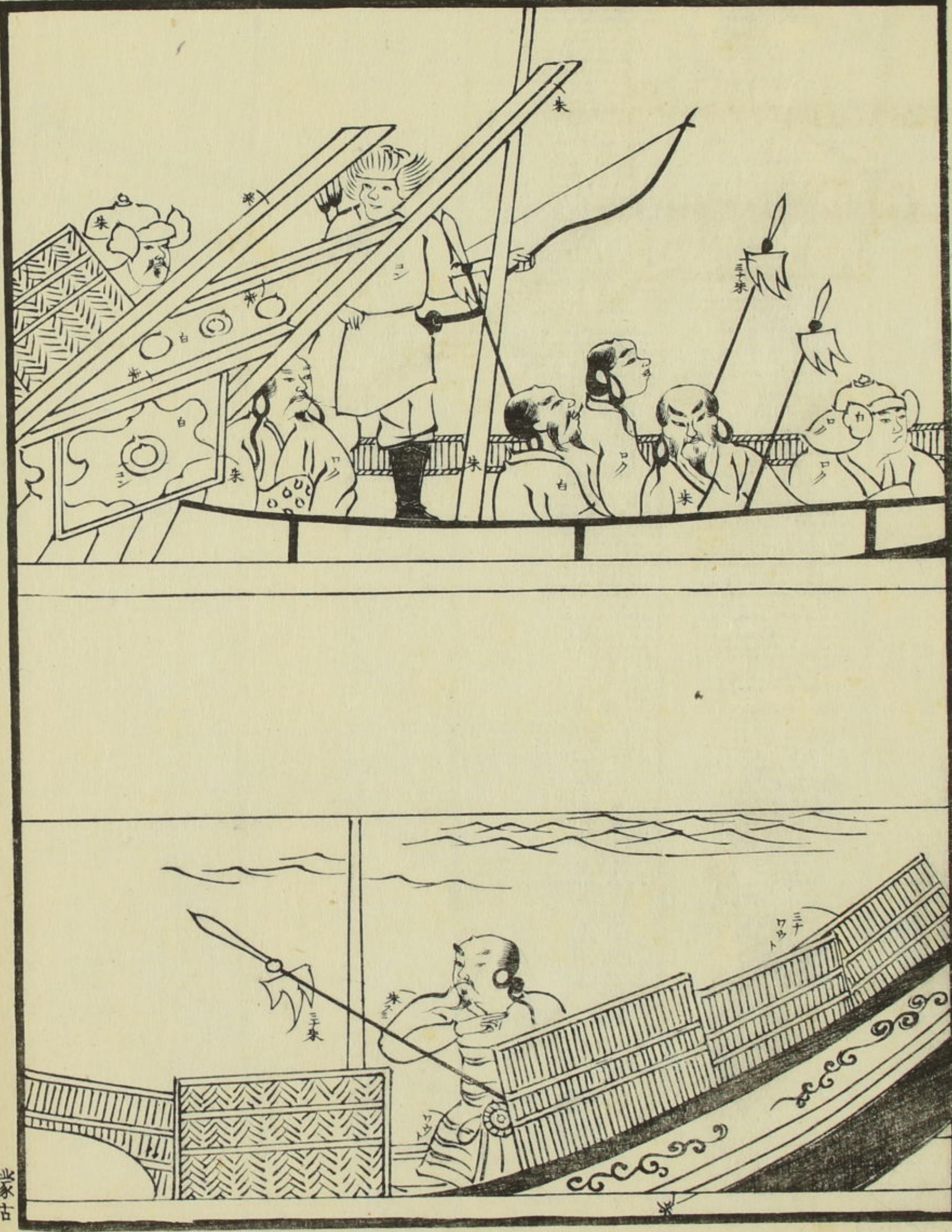
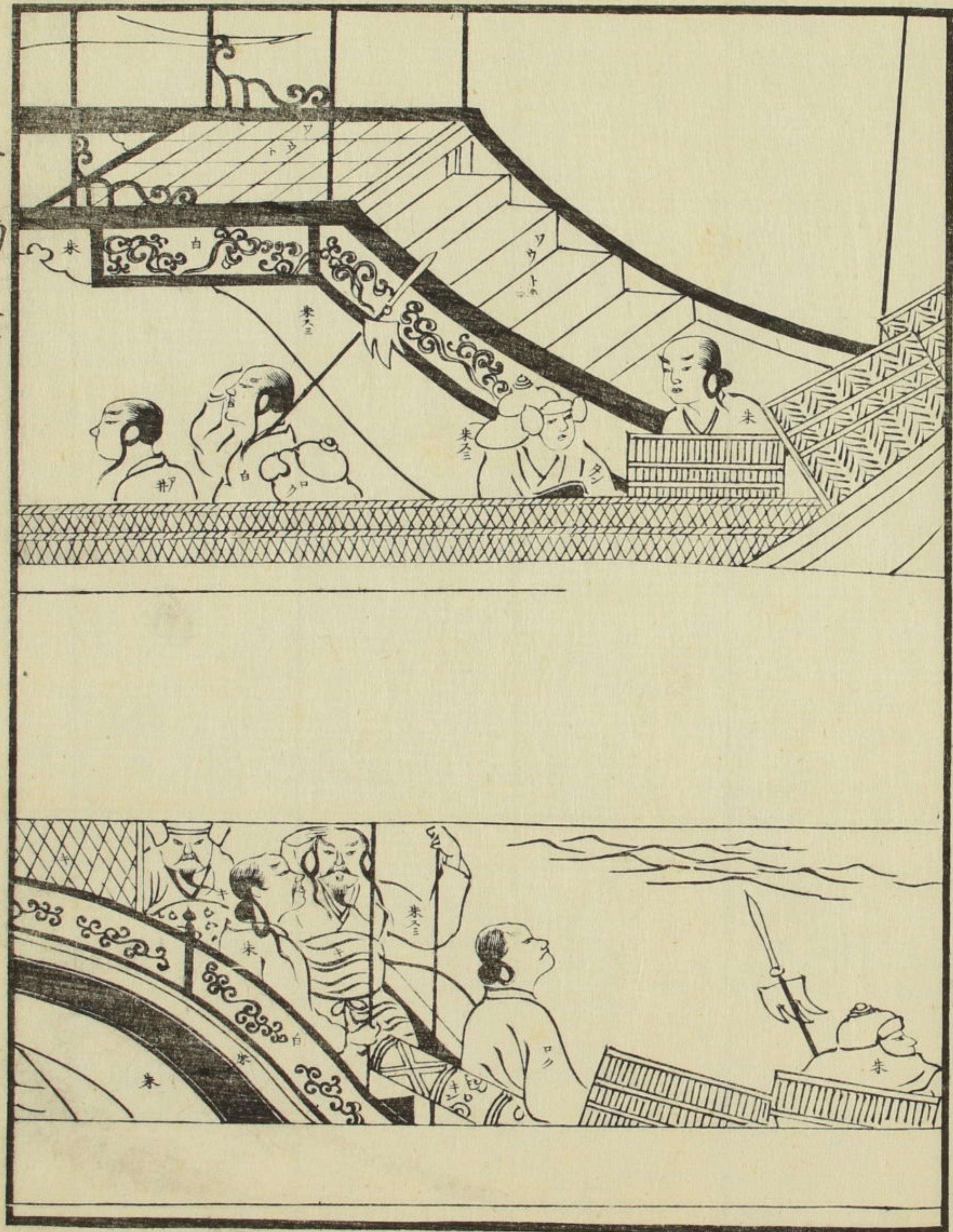
舟鳥叢書

下十八

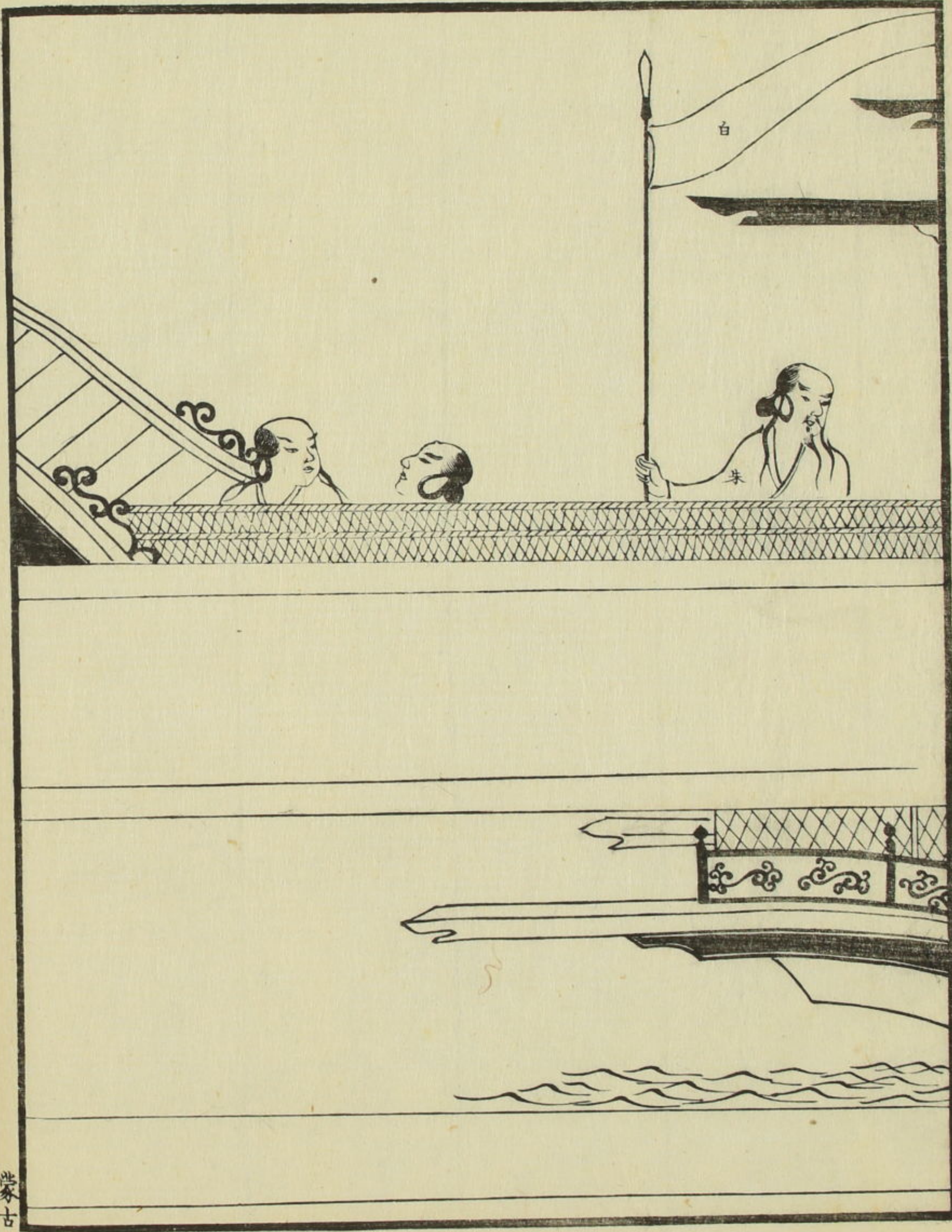
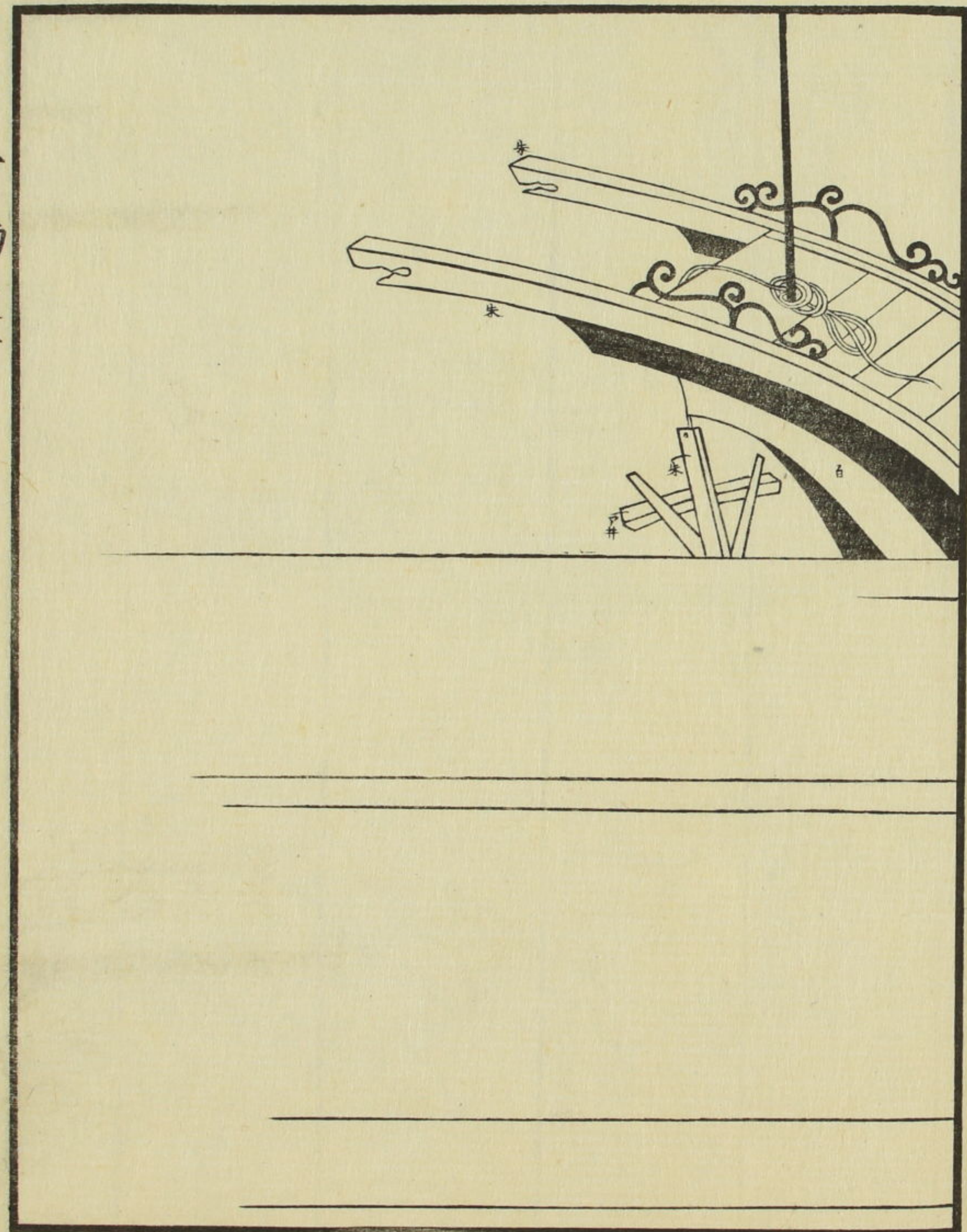
此家古







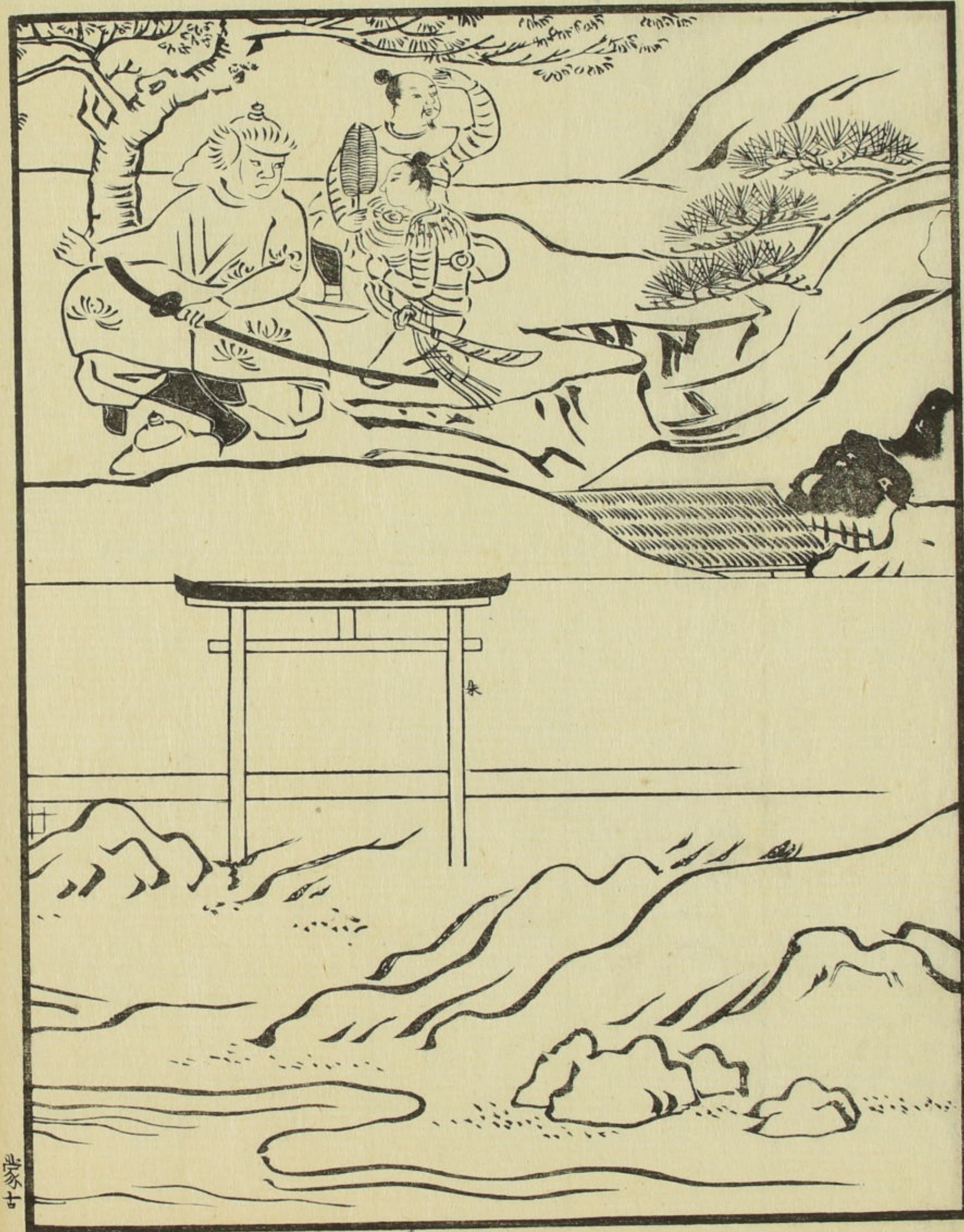
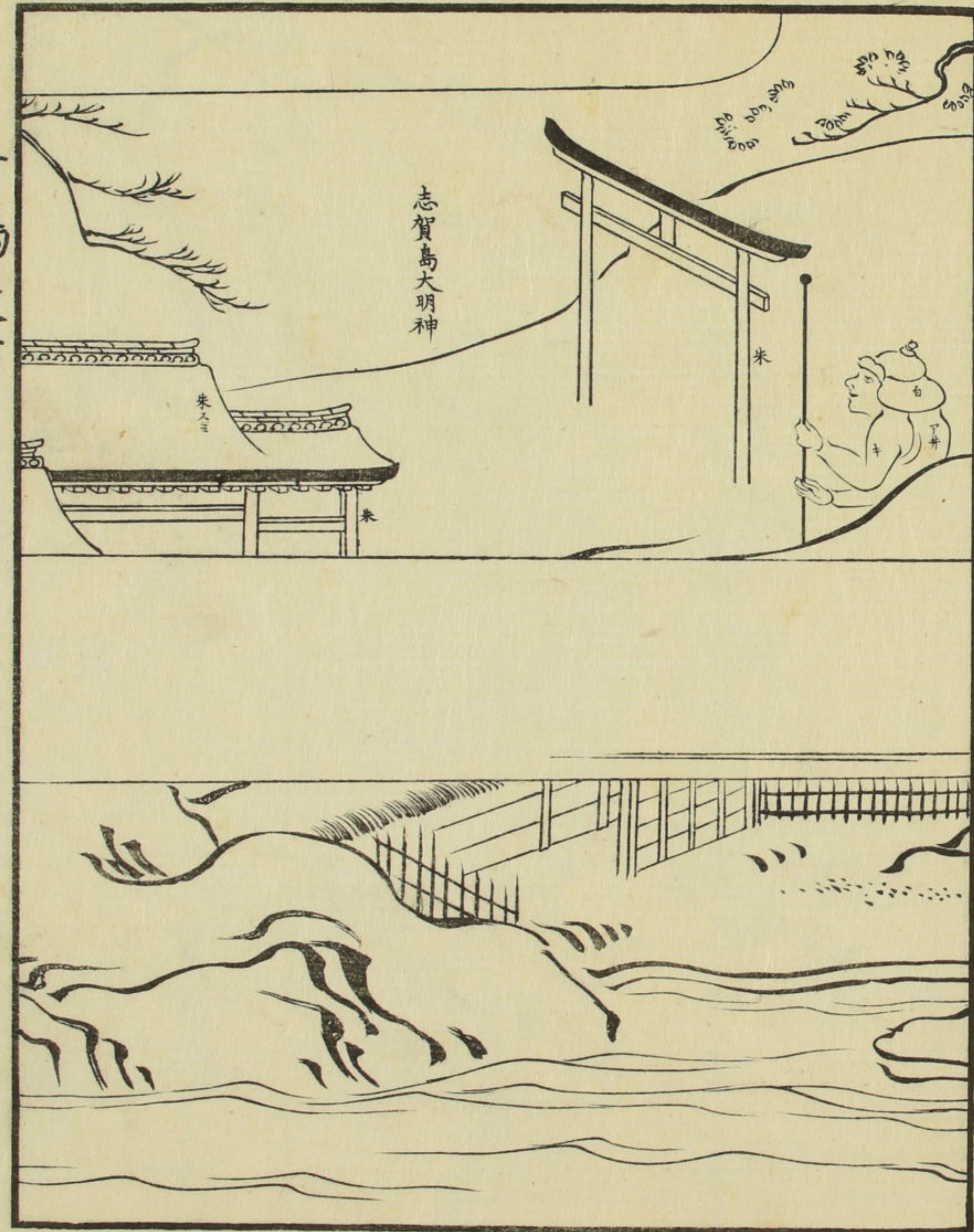
丹鳥叢書



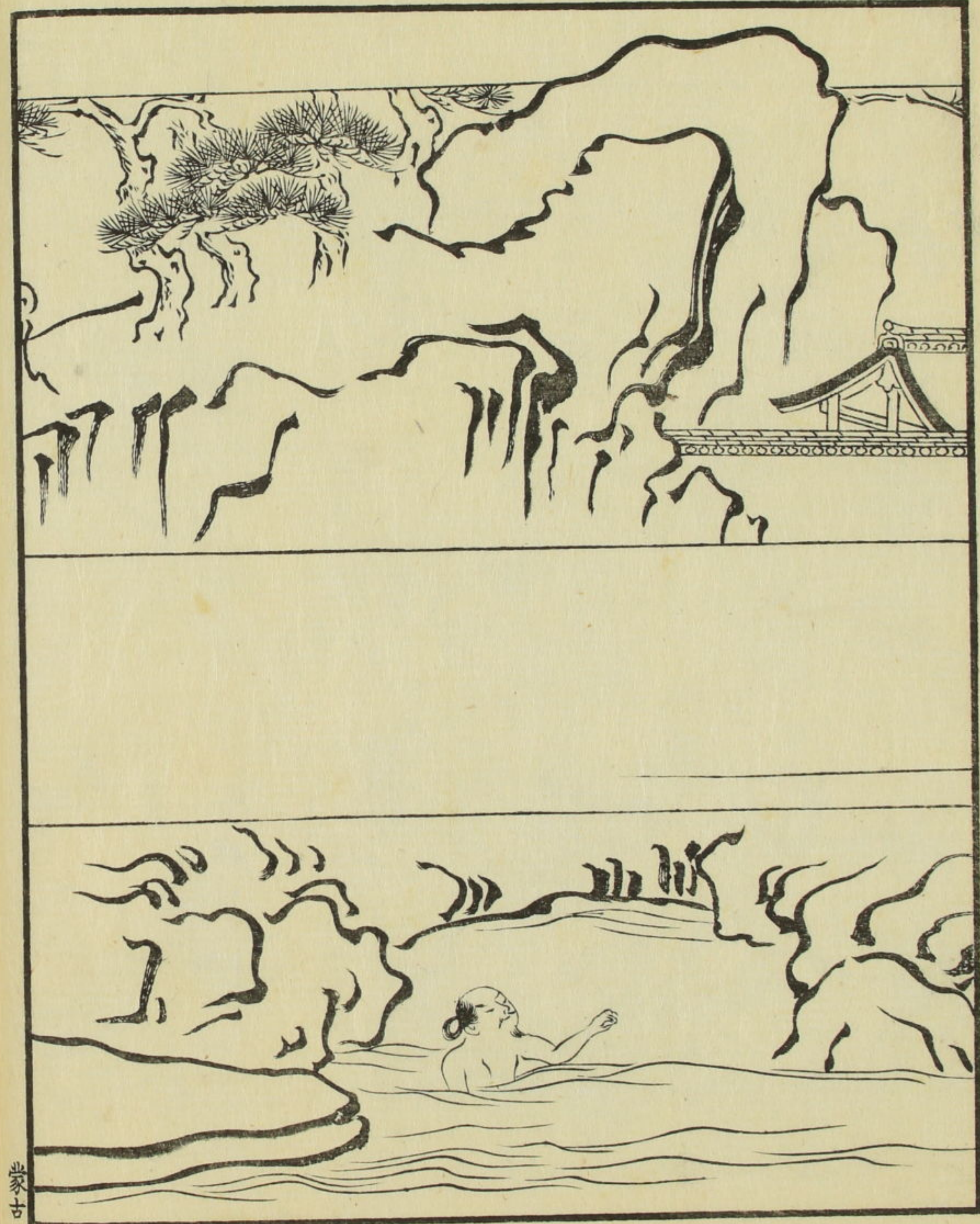
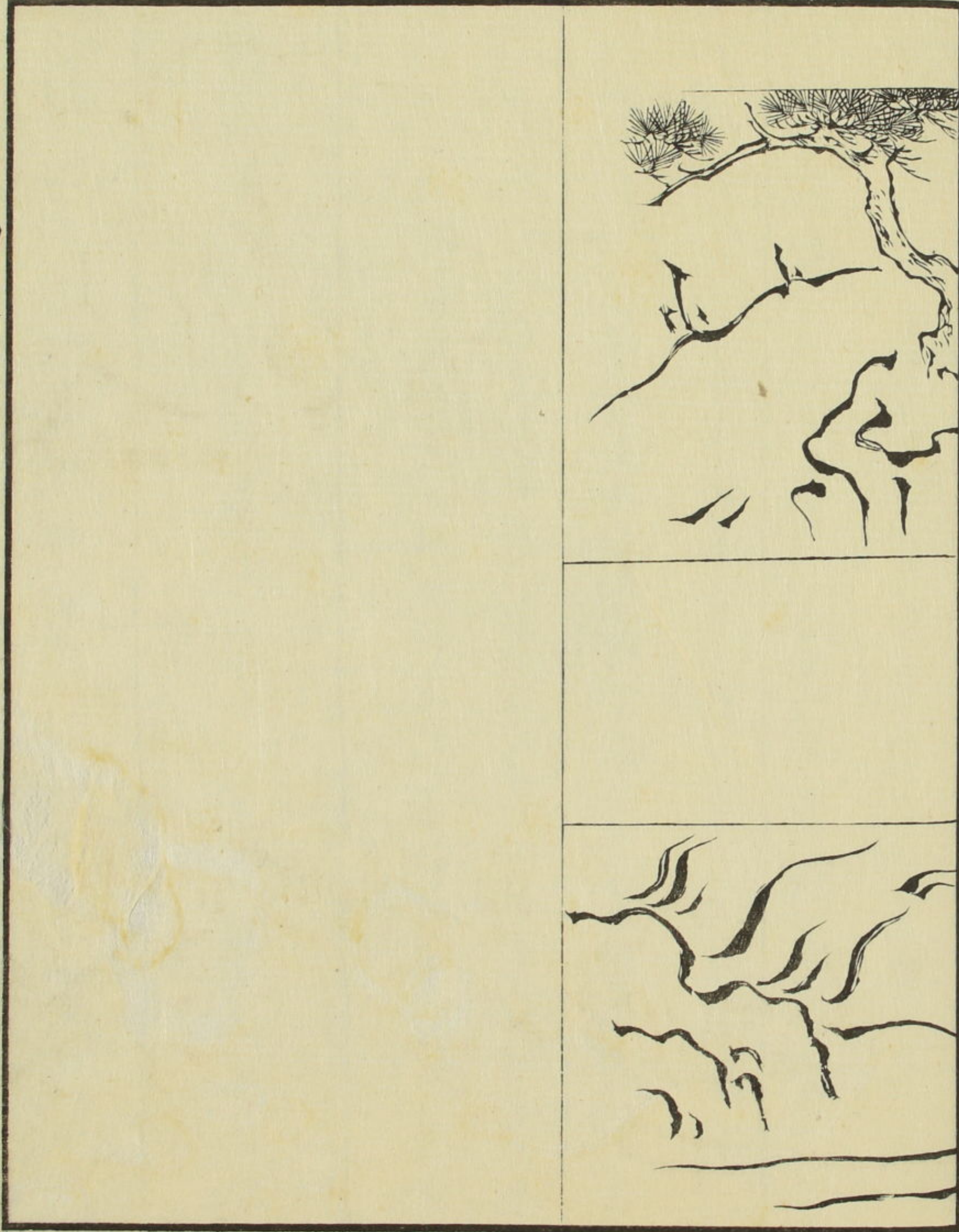
丹鶴叢書

下廿二

崇古



丹
鶴
叢
書



丹
鶴
叢
書

下
廿
四

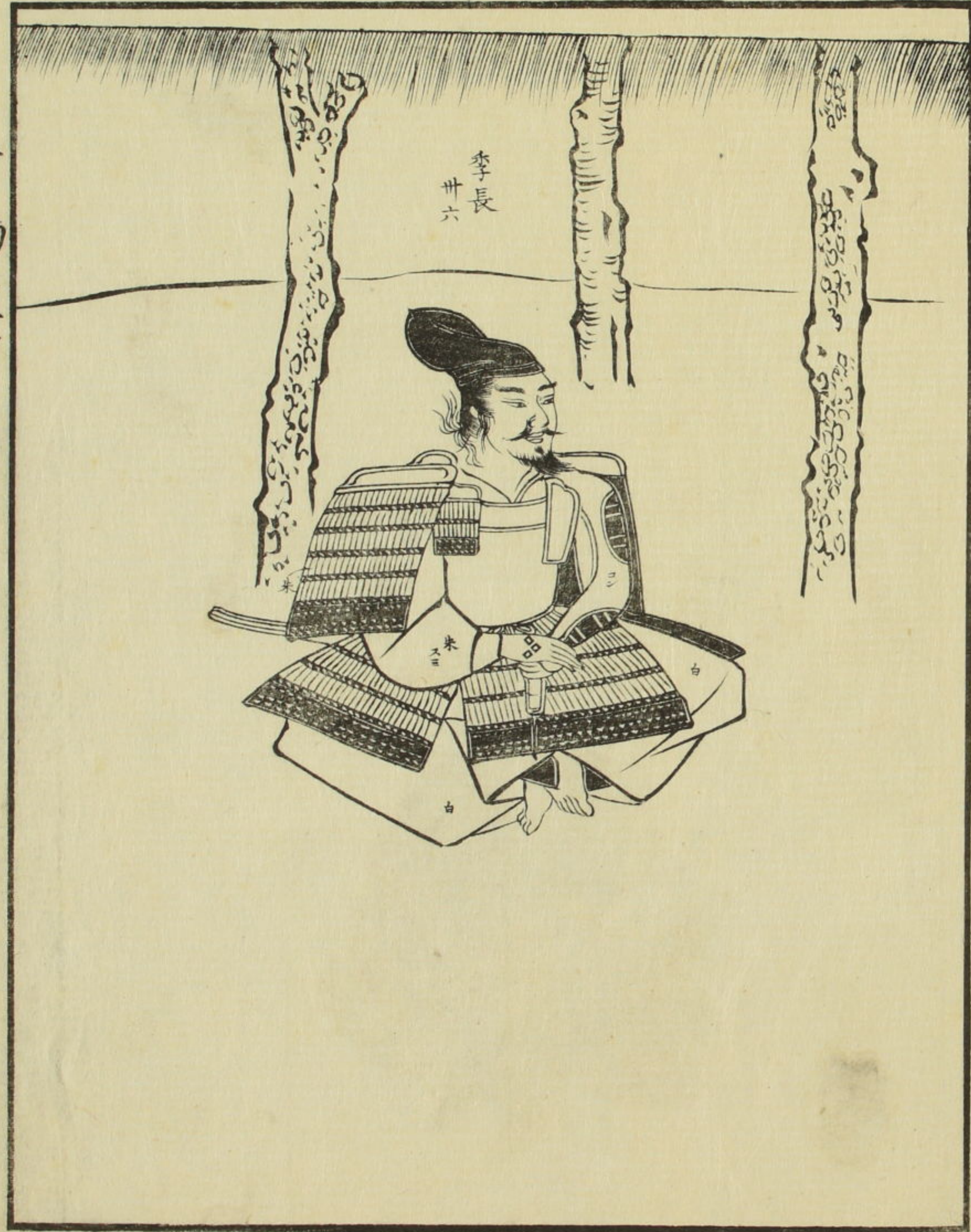
崇
禪
寺

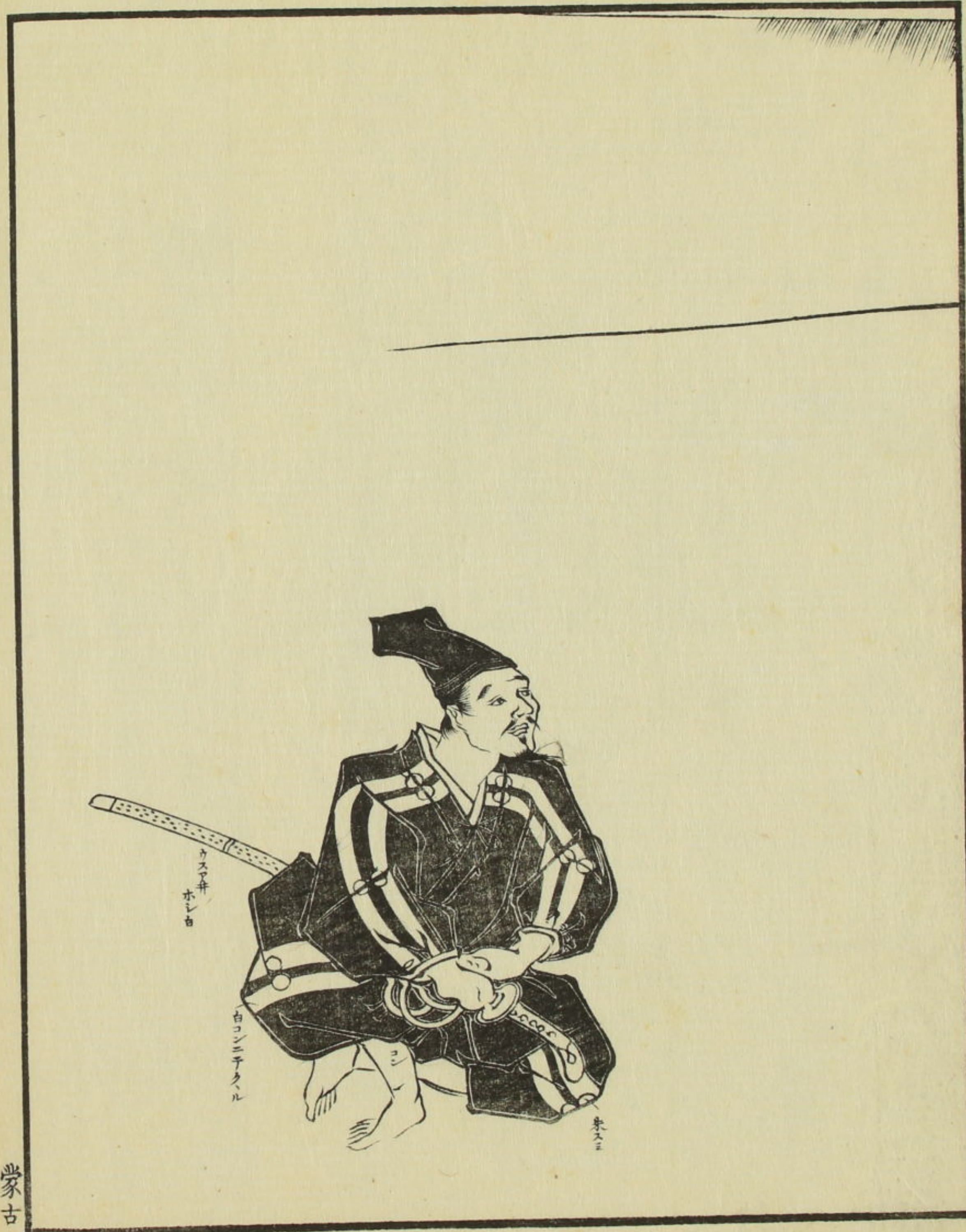
陣ふをいさく合戦をいさく
 事むさなるのり物信濃國津家人ありき
 いや二郎いさくいさくいさくいさく
 乃物いさくいさくいさくいさく
 せんこのいさくいさくいさくいさく
 新承いさくいさくいさくいさく
 いさくいさくいさくいさくいさく
 水手ろをいさくいさくいさくいさく
 いさくいさくいさくいさくいさく
 いさくいさくいさくいさくいさく
 いさくいさくいさくいさくいさく

此家古

守護乃章さすいさくいさくいさくいさく
 流く麻鳴いさくいさくいさくいさく
 停きいさくいさくいさくいさく
 いさくいさくいさくいさくいさく
 證人小豊後國津家人ありき
 いさくいさくいさくいさくいさく
 いさくいさくいさくいさくいさく
 いさくいさくいさくいさくいさく







蒙古

小すむその御事
 乃人おれえー申
 川下文を給もて御むまを給事
 季長一人もてなつて弓節の面目をなと
 事なよこゆらあはしう
 をす
 ころむへさや向後
 君の御大事あむとさハ取あよさるをがし
 又

丹鳥叢書

おれをけし乃ことす(新)

永仁元年二月九日

一 關東へまゐりし時御むさう乃川をよそ

年五月廿三日

佐大明神あそ免工

〇七志也

ふまゐりし也

志つれ

とんいせ

終てひのささくらの急ふ御あてをこのまのれさ
と給し御事 關東海東ねをいれ志なりよそ

榮家

海東を給もくさ 〇四に

ひのささくら御あ

れとくをいれゆふ

海東よ入部志くさくらのとくをいれ

あさくらの御あそけりしれをささくらゆふ

同十一月一日御し 〇五を給もくさあそくらの月四日

きけりし小川く回 海東小入部

とをか福く御志

〇六御あそけりし

丁 ちよわく 御 ちよわく ちよわく

己 ちよわく ちよわく ちよわく

と ちよわく

の ちよわく ちよわく ちよわく ちよわく

辛 ちよわく ちよわく ちよわく ちよわく

庚

世家古

ハ

シ ちよわく ちよわく ちよわく ちよわく

ケ ちよわく ちよわく ちよわく ちよわく

甲

士

御 ちよわく ちよわく ちよわく ちよわく

癸 ちよわく ちよわく ちよわく ちよわく

乙 ちよわく ちよわく ちよわく ちよわく

か ちよわく

ちよわく

丹雀書
 下三十五
 甲
 乙
 丙
 丁

家古

丹雀書
 乙
 庚
 戊

辛

抄るる

ん

の即ちてはなはな

士

すふ也

蒙古

癸

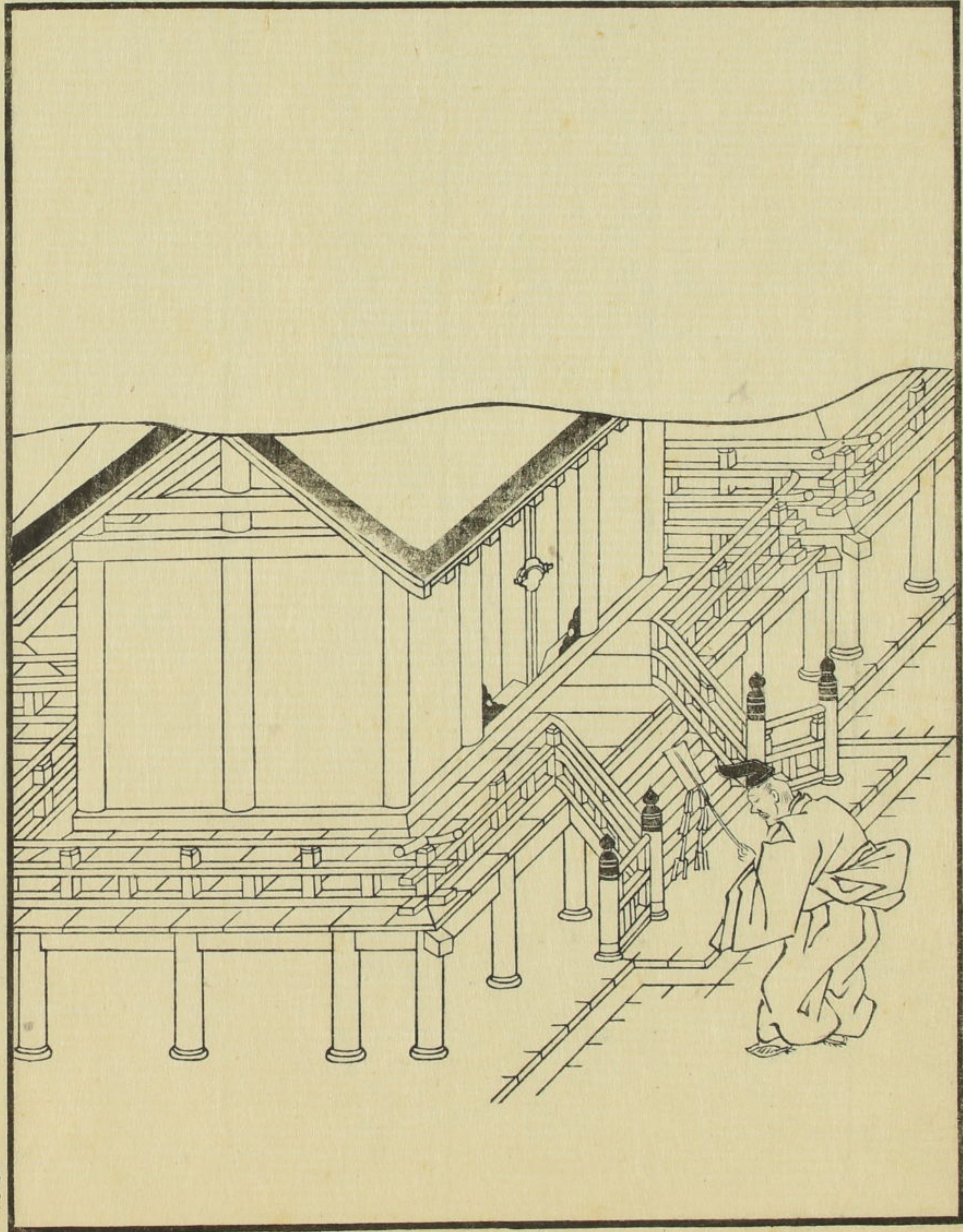
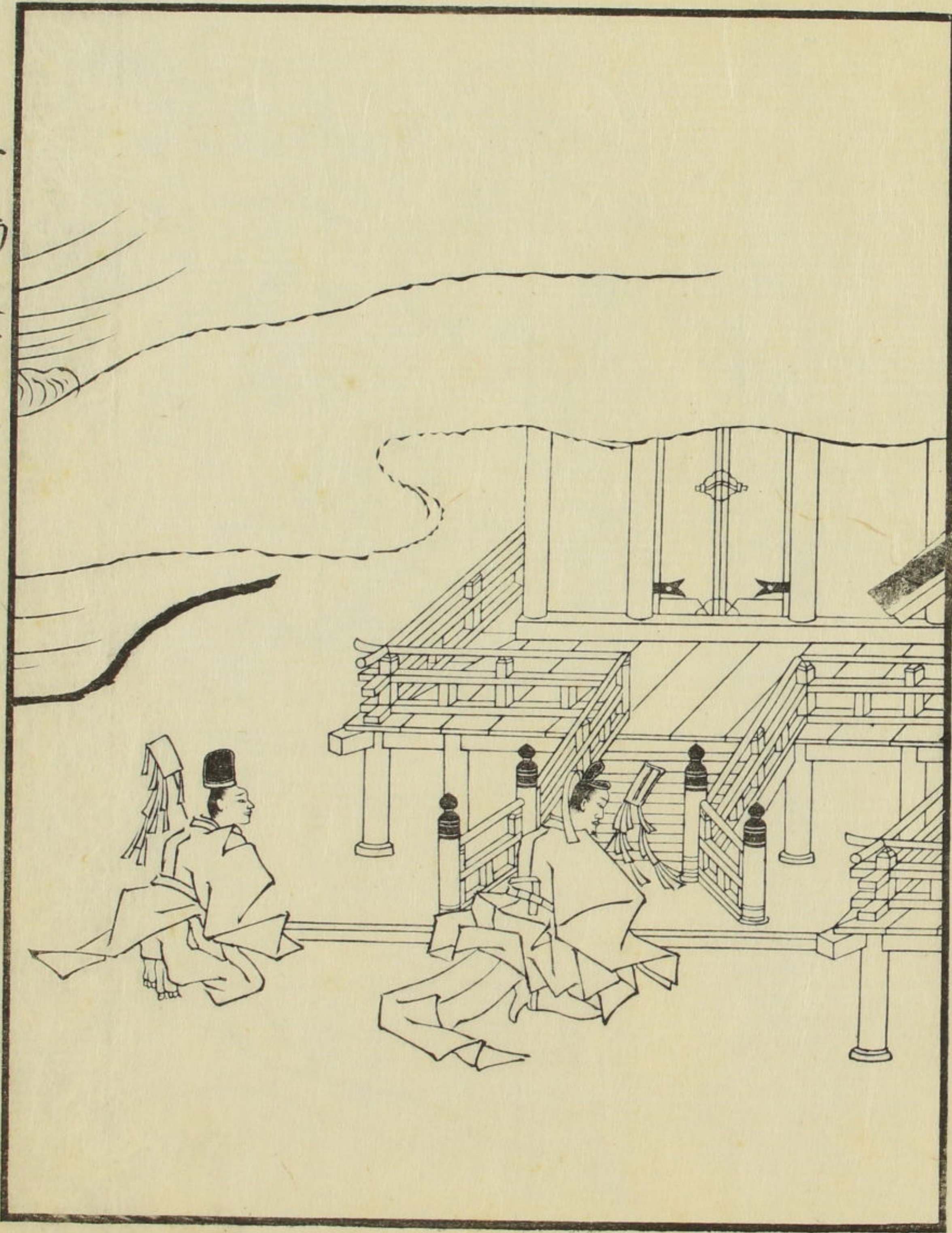
十一月一日

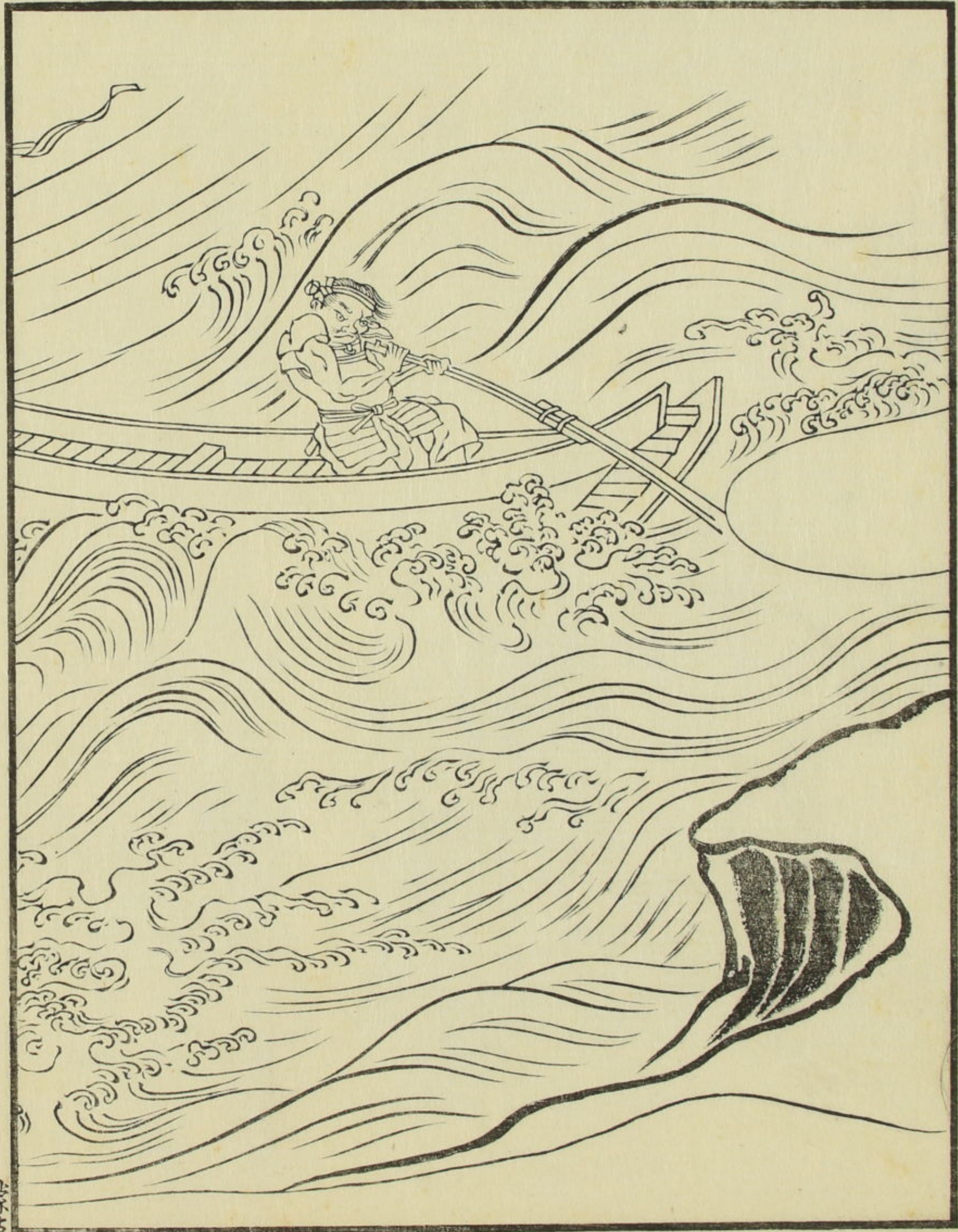
巴下太平記画卷

弘安乃ころ大元の兵船七万余艘万舟軍を大船と
く三百七十まんふのせいとてきく日本をころ乃津
をせつとつちうをさるちるき日本を兵をいの子
く川志とそくちとよつと和國一品乃流社の是神
へ勅使をきくをいをさけられハ 停務る法
あきみより春日の神その 神名性一のせと二千
七百五十余社乃神のちりてんをむとてあ
とせしものよとてあよとてあ 係り大風ふとてあ

蒙

ほひいのつちをさるちとてあ七万さうの船乃やう
ちのり万將軍一人はよもちとてあ風乃つてちふ
きつとてあ呂洞濱とてあ仙人とてあ人力のとてあ
ろよあつていとてあ本國とてあるつと万將軍
とてあ言は







崇古

丹鶴叢書目錄

丁未帙

正中御飾記一卷

内宮御神寶記一卷

右二部原本丹鶴書院藏

後水尾院當時年中行事二卷

右原本村田春野藏

春記三卷 同裏文書

右原本中山備前守信守朝臣藏

九條右大臣集一卷

御堂閑白集一卷

右二部原本丹鶴書院藏

藤原家經朝臣集一卷

右原本仲田顯忠藏

和泉式部續集二卷

右原本井上文雄藏

源重之女集一卷

小侍從集一卷

殷富門院大輔集一卷

右三部原本仲田顯忠藏

風介津連奈幾物語一卷

右原本新見伊賀守正路朝臣藏

已上摠十二部十五卷或分或合為十一

本

戊申帳

釋奠供物圖一卷

諸陵雜事注文一卷

雜筆要集一卷

右三部原本村田春野藏

春記十一卷

右原本松平越中守定猷朝臣藏
室所殿春日詣記一卷

右原本村田春野藏

揆弓藤割次第一卷

諸鞍日記一卷

九條家車圖一卷

西園寺家車圖一卷

右四部原本田口千頴藏

萬代和歌集二十卷

前參議教長卿集六卷

濱松中納言物語四卷

乙寺緣起一卷

右四部原本丹鶴書院藏

已上摠十三部五十卷為三十九本

己酉帙

侍中群要十卷

右原本松岡明義藏

信實朝臣集一卷

草根集十五卷

右二部原本丹鶴書院藏

繪師草紙一卷

右原本小田切直藏同人縮寫之

蒙古襲來繪詞三卷

右原本高島千春藏同人縮寫之

已上摠五部三十卷為二十四本

庚戌帙

三中口傳五卷

今昔物語自第廿二至第卅一十卷

忍音物語一卷

右原本丹鶴書院藏

已上三部十六卷為二十七本

辛亥帙

嗣刻

日本書紀二卷

東大寺要錄十卷

風葉和歌集十八卷

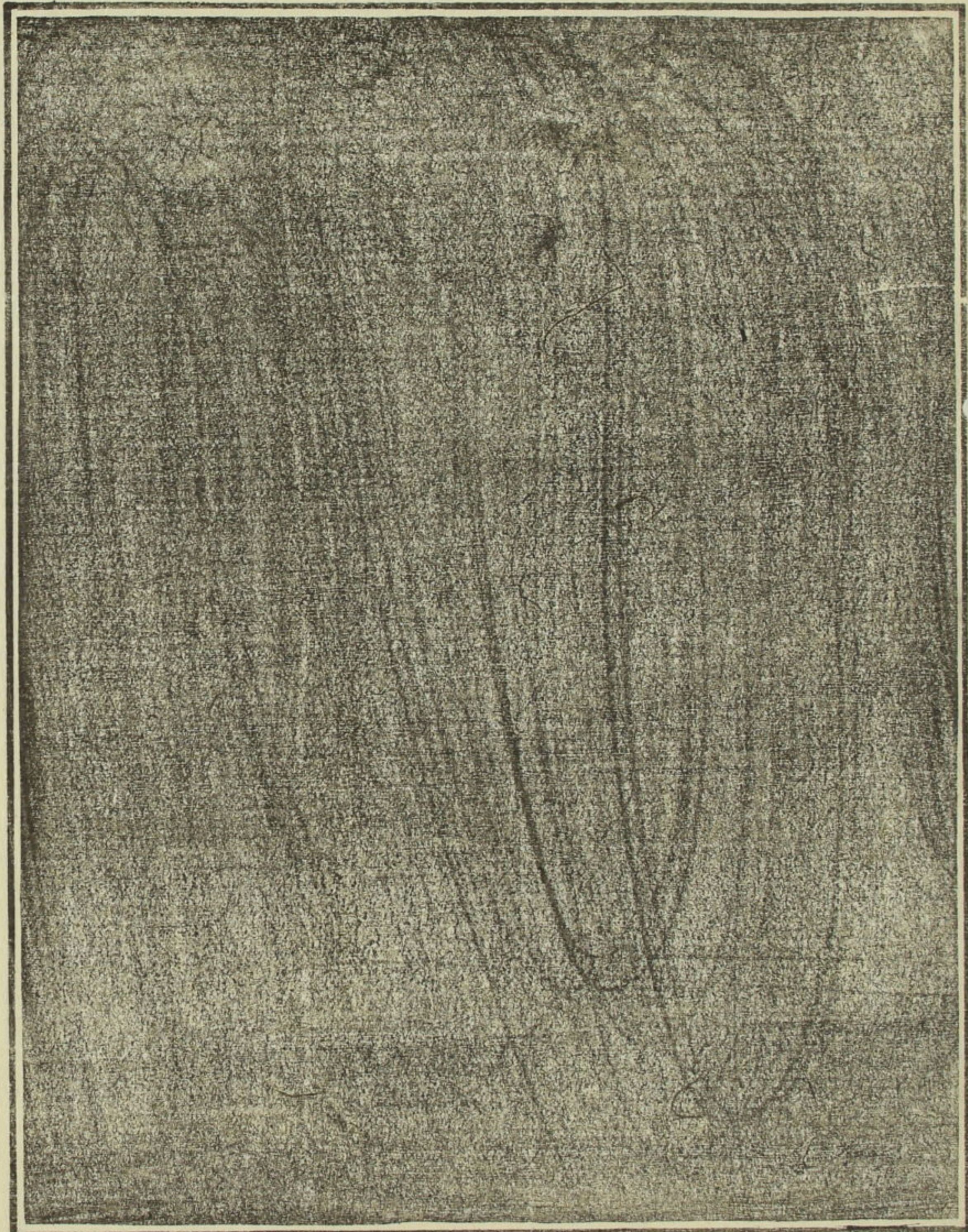
今昔物語第十一卷至第十二卷

右四部原本丹鶴書院藏

已上摠四部卅二卷為廿本

壬子帙

嗣刻



丹鶴城藏

賣弘所

三都書肆

京都三条通并屋町

出雲寺文次郎

大阪心齋橋通安堂寺町

秋田屋太右衛門

江戸芝神明前

岡田屋嘉七

同鍛冶橋五郎兵衛町

中屋徳兵衛

